

公開シンポジウム① 「ユース年代のサッカー」を 語ろう! ー U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップの10周年を機に

Jリーグ発足を機にスポーツ界が劇的に変わり始めた1997年度、日本サッカー協会機関誌 JFAnews に「ユース年代のサッカーはいま!」の連載を持つことができました。高校生や指導者の意識の変化、スポーツ環境再構築のための視点、リーグシステムや部活動改革の方向性、サッカーやフットサルをバランス良く配置する年間計画の提示などを試みました。

これらのうちいくつかは実現されましたが、形だけで“魂”が伴わない実態や、少子化、暑熱環境対策、働き方改革などの諸課題が大きいのがわかります。改めて「ユース年代のサッカー」を議論する場が必要であると感じ、本シンポジウムが企画されました。

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年を機に、「ユース(主にU-18男子)のサッカー(フットサルを含む)」の現状と今後について、可能性と課題を共有しました。
(中塚義実)

公開シンポジウム2025-1報告(月例サロン通算349回)

「ユース年代のサッカー」を語ろう!

U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年を機に

- 【名称】 サロン 2002 公開シンポジウム 2025-1「ユース年代のサッカー」を語ろう!
ー U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの 10 周年を機に
- 【主催】 特定非営利活動法人サロン 2002
- 【日時】 2025(令和7)年 11月23日(日祝) 15:30～18:00(15:00 受付開始)
- 【会場】 筑波大学附属高校「桐陰会館」&オンライン(Zoom)
- 【登壇者】 玉生 謙介 全国高体連サッカー専門部部長/学習院高等科
大友 洋介 日本フットサル連盟 U-18 ワーキンググループ委員長/武相高校
*橘 和徳 富山県 U-18 フットサルリーグ責任者/富山中部高校
*原 陽司 東京都 U-15、U-18 フットサルリーグ運営委員長
代理:石井智 東京都サッカー協会フットサル委員会ユース部会副部長/錦城高校
*本多克己 株式会社シックス/NPO 法人サロン 2002 副理事長 *指定発言者
※中塚 義実 NPO 法人サロン 2002 理事長 ※コーディネーター兼
- 【参加費】 1,000 円(サロン 2002 ファミリーと学生は無料です)
- 【参加申込】 Peatix よりお申し込みください ⇒ <https://peatix.com/event/4614131>
- 【報告書作成】 中塚義実
- 注)写真・スライドは、クレジットが入っているもの以外は各演者が、会場写真は中塚義実が提供

<開催趣旨>

明治・大正期の近代スポーツ導入以来、日本におけるユース年代のスポーツの場は主に学校でした。体育の授業や部活動が日常的なスポーツの場となり、学校対抗の競技会はメディアの支援を得て大きく取り上げられ、日本人の生活の一部となりました。しかし長きにわたるこのシステムは 20 世紀後半から限界が見え始め、21 世紀のいま、大きな転換期を迎えています。部活動の地域展開は学校教育の見直しだけでなく、地域の活性化の観点からも求められます。

Jリーグ発足を機にスポーツ界が劇的に変化し始めた 1997 年度、日本サッカー協会機関誌 JFAnews に「ユース年代のサッカーはいま!」の連載を持ちました。高校生や指導者の意識の変化、スポーツ環境再構築のための視点、リーグシステムや部活動改革の方向性、サッカーやフットサルをバランス良く配置する年間計画の提示などを試みました。これらのうちいくつかは実現されましたが、形だけで“魂”が伴わない実態や、少子化、暑熱環境対策、働き方改革などの課題が大きいのが、改めて「ユース年代のサッカー」を議論する場が必要であると感じています。

NPO 法人サロン 2002 が主催する「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」が今年で 10 周年を迎えます。このタイミングで標記シンポジウムを企画しました。「ユース年代(今回は主に U-18 年代)のサッカー(フットサルを含む)」の現状と今後について、可能性と課題を出し合う場にしたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

(中塚義実)

公開シンポジウム 2025-1 参加者 計 22 名(敬称略)

注)名前の前の記号は、◎ NPO 会員、○会員外のサロンファミリー、無印はサロンファミリー外

■会場での対面参加(10名)

石井智(錦城高校)、遠藤宏一(足立学園高校)、○大河原誠二(桐窓サッカー倶楽部、サッカークラブ桐一族、附属 106 回サッカー部)、◎橘和徳(富山中部高校)、玉生謙介(全国高体連サッカー専門部部長/学習院高等科)、◎茅野英一(元帝京大学)、◎中塚義実(NPO 法人サロン 2002 理事長)、◎本多克己(NPO 法人サロン 2002 副理事長)、望月昇(以前にサッカー指導経験あり)、森田真陽(筑波大学附属高校)

■オンライン参加(12名)

荒川浩幸((一社)北海道フットサル連盟)、◎井上俊彦(NPO サロン 2002 長野支部)、大友洋介(関東フットサル連盟)、◎小池靖(メーカー勤務/元サッカースポーツ少年団指導者)、小坂博章(愛知県サッカー協会)、小曾根潮(京都府フットサル連盟)、◎関秀忠(NPO サロン 2002 理事/弁護士)、露木健司(バルドラール浦安)、鶴田文彦(熊本県 U18 フットサルリーグ)、○長野いつき(音楽家/部活動学会)、中村洋平(If Levante Futebol Clube)、○野原輝人(洲本市地域おこし協力隊/FC.AWJ スタッフ(関西サッカーリーグ所属))

登壇者プロフィール

【演者】

◆玉生 謙介(全国高等学校体育連盟サッカー専門部長/学習院高等科サッカー部顧問)

東京都出身。桐朋高校から筑波大学体育専門学群入学。蹴球部所属。大学院時代は蹴球部コーチ。1999年より学習院高等科に保健体育科教諭として勤務。同校サッカー部顧問を務め現在に至る。

DUO リーグの上位リーグとして創設した東京都地区トップリーグの代表を 2008 ~ 2015 年に勤める。東京都高体連サッカー専門部委員長(2019 ~ 2020 年)を経て、コロナ禍の 2021 年より全国高体連サッカー専門部長。高校総体サッカー競技の固定開催に尽力。諸課題に直面しながら全国 3,800 校の男子サッカー部と 500 校の女子サッカー部の組織をリードし、現在に至る。

フットサルとも深く関わり、大学時代には FIFA 公認化前の世界選手権に日本代表として出場経験あり。

2001 ~ 2011 年は東京都 FA フットサル委員会ユース部会のメンバー。

◆大友 洋介(日本フットサル連盟 U-18 ワーキンググループリーダー/武相高校フットサル部顧問)

秋田県出身。2001 年より神奈川県武相高校理科教諭。2002 年 7 月に「フットサル部を作りたい」生徒たちが集まり、武相高校フットサル部の前身となる活動が始まる。2004 年 2 月に同好会、2007 年 2 月よりフットサル部として承認される。2005 年に神奈川県 FA フットサル委員となり、2006 年に U-18 年代の第 1 回大会を開催。2008 年には U-18 リーグを開始。2023 年 11 月より日本フットサル連盟の U-18 ワーキンググループリーダーに就任。U-18 年代の育成・強化と、日常的なフットサル環境の整備に努める。

【指定発言者】

◆橘和徳(富山県 FA フットサル委員・同高体連サッカー専門部委員/富山中部高校サッカー部顧問)

富山県出身。富山中部高校から筑波大学体育専門学群入学。蹴球部所属。2005 年第 1 回全日本フットサル大会東日本大会出場。大学院時代は女子サッカー部 GK コーチとしてインカレ 3 位を経験。2012 年より富山県公立学校教諭(保健体育)となり、同時に北信越フットサルリーグにて約 10 年間プレー。

現在、富山県高体連サッカー専門部では U-18 サッカーリーグと U-18 フットサルリーグの運営に携わり、サッカーとフットサルの融合を目指している。同県高体連研究部委員長も務める。

◆原陽司(東京都 FA フットサル委員会ユース部会メンバー、U-15・U-18 フットサルリーグ代表)

栃木県出身。2012 年よりフウガドールすみだの育成年代の運営および東京都 U-15 リーグの運営に携わる。2024 年度からは東京都 U-15・U-18 リーグを統括する立場となり、大きな可能性と多くの課題が募る東京都の育成年代のフットサルをリードする。

◆本多 克己(NPO 法人サロン 2002 副理事長/神戸アスリートタウンクラブ理事長)

兵庫県出身。京都大学文学部卒。賀川浩と株式会社シックスを設立し、賀川サッカーライブラリなどのコンテンツ、ホンダカップなどのスポーツ大会をプロデュースしてきた。神戸アスリートタウンクラブ理事長、サロン 2002 副理事長、兵庫県フットサル連盟理事、兵庫県サッカー協会理事を務める。

【コーディネーター】

◆中塚 義実(NPO 法人サロン 2002 理事長/東京都 FA フットサル委員(ユース部会長))

大阪府出身。筑波大学体育専門学群・同大学院を経て 1987 年より筑波大学附属高校保体科教諭・蹴球部顧問。2024 年度末まで 38 年間、異動することなく勤務。1995 年度より東京都サッカー協会フットサル委員(ユース部会長)。1996 年度に東京都内でユースサッカーリーグ(DUO リーグ)を創設。1997 年度よりサロン 2002 の活動開始。2014 年度に NPO 法人化。

「ユース年代のサッカー」を語ろう！

U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年を機に

I. オープニング (中塚義実)

皆さんこんにちは。NPO 法人サロン 2002 の公開シンポジウム、<「ユース年代のサッカー」を語ろう！- U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年を機に>と題して、いまから約2時間半お付き合いください。今日は「ユース年代」の中で、主にU-18男子の話が中心となります。ところどころU-15や女子についても触れていきたいと思います。

私は主催団体 NPO 法人サロン 2002 理事長の中塚義実と申します。コーディネーターを務めます。長らく、本日の会場校である筑波大学附属高校に勤めておりました。東京都サッカー協会ではフットサル委員会ができた当初からの委員で、ユース部会長を務めています。

スライドを共有させていただきます。喜んでいる写真です。全国高校サッカー選手権大会決勝と同じ成人の日に、毎年長野県千曲市で U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップという全国大会を、toto の助成金をいただいて NPO サロン 2002 で主催しています。この写真は、今年1月の第9回大会で優勝チームが優勝カップを掲げて喜んでいる写真です。優勝チームは東京のフウガドールすみだファルコンズ。4連覇達成です。

こここのところ東京が結果を残しています。今日のシンポジウムでその秘密を探るわけではありません。多くの課題を現場が抱えています。フットサルだけではなく、サッカーも含め、ユース年代のフットボールがいろんな意味で曲がり角に来ているのを

感じます。開催趣旨にあるような問題意識から、本日のシンポジウムを企画しました。

進行案です。まず私の方で20分ほど時間をいただき、問題提起をいたします。続いて、U-18年代のサッカーとフットサルの現状と課題について、全国的なところを取り上げていきます。

会場にはいま様々なことで頭を悩ませておられる玉生謙介さん、全国高体連サッカー専門部長がいらっしゃいます。お正月の高校選手権で開会挨拶をされる方です。よろしくお願いします。

玉生さんの高体連サッカーの話に続き、日本フットサル連盟で U-18 年代をどのように進めていくかを検討するプロジェクトのリーダーをされている大友洋介さんにお話しいただきます。今日は神奈川県フットサルリーグの試合があるのでオンラインでの参加ですが、少し手違いがあって試合が終わるまで参加できません。4時15分ぐらいになるとのことです。

NPOサロン2002公開シンポジウム2025-①

「ユース年代のサッカー」を語ろう！

U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年を機に



2025(令和7)年11月23日(日祝) 15:30~18:00 桐陰会館
主 催 : 特定非営利活動法人サロン2002

順序を少し入れ替えて、玉生さんの話が続いて各地域の様子ということで、富山県と東京都、そして全国を見据えた話を、指定発言者の3名の方にお願ひします。富山の話をしてくださるのは橘和徳さんです。よろしくお願ひします。東京の話は原陽司さんにお願ひしていましたが、どうしても来られなくなり、代わりに錦城高校男女フットサル部顧問をされながらU-18リーグの運営を精力的にされている石井智さんにお話しいたできます。おなじみの本多克己さんから、10回目を迎えるU-18フットサルリーグチャンピオンズカップのあゆみと各地域の様子などをお話しいただく予定です。

会場にはいま8名。このあと数名来られると思います。オンラインの方には事前に11名が参加申込をされています。後ほど発言される際に自己紹介を合わせてしていただければと思います。

◆テーマ設定の背景

今日のテーマで「ユース年代のサッカー」を括弧付けにしているのには理由があります。Jリーグが始まって数年経過した1996年度。私は高校教師をしていたのですが、その頃抱いた問題意識をもとにして近隣の学校とクラブユースで「DUOリーグ」という高校生年代のサッカーリーグをスタートさせました。それがいま全国に広がっています。フットサルの方は、1995年度から各都道府県に委員会ができ、私もそのころから委員の一人なのですがU-18の大会はまだ始まらない時期でした。

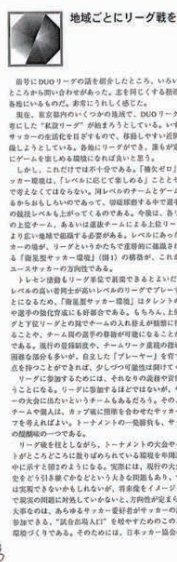
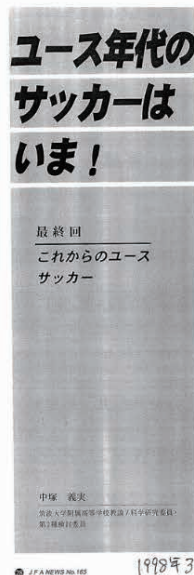
ちょうどその頃、1997年度に日本サッカー協会機関誌JFAnewsで「ユース年代のサッカーはいま」という連載を持つ機会がありました。Jリーグができたことによってユース年代のサッカー界、あるいはスポーツ界全体がどのようになっていくのだろうということを、全国大会出場チーム対象のアンケート調査や、スポーツの社会学的な視点からみた改革の方向性などの考えを示したものです。そして現場で取り組みはじめたことを「ユース年代にリーグ戦を」「これからのユースサッカー」として紹介しました。いまから30

年近く前の連載ですが、ここに書かれたことは、いまサッカー界でかなり実現しているのではないかと思います。

しかし連載時には想定していなかったこと、視野には入っていただけと思っていた以上に進んでしまったことがあります。たとえばコロナ禍がありました。青少年の活動における優先順位を改めて考えることになりました。そして暑熱環境対策。日本の夏がとんでもない状況になっていく中、青少年が夏に屋外でスポーツすることが問題視されるようになりました。運営側も頭を悩ませる大きな問題です。そしてこの国のスポーツを担ってきた学校運動部が、ご存知の通り、学校だけでは成り立たなくなっています。部活動の地域展開は中学校で先行していますが、高校も他人事ではありません。そもそも学校の教員の仕事の中で、部活動にこんなに時間と労力を注いでしまっているのだろうか。本来教員がすべきことはできているのか。持続可能なあり方を考えたときに、本当に大丈夫なのかということがあります。そして少子化の問題。これは想定以上に進んでしまっています。地方と都市部の格差もありません。このような中でいろんなことを考え直さなアカン時期だということです。

連載の最終回では、「地域ごとにリーグ戦を」と提言しました。底辺は近場で、レベルが上がるにつれてより広範囲で、9地域リーグを頂点とするぐらいのイメージです。高校生の生活圏はそれぐらいがちょうどよい。

リーグ戦の期間がシーズンです。オフシーズンやプレシーズンもはっきりします。オフを作ってサッカーから離れる時間を持つことも大事です。



JFAnews No.165 1998年3月号 連載「ユース年代のサッカーはいま！」最終回「これからのユースサッカー」

図1 縦断型サッカー一環視図案

図2 イベントシステム別のユース年代

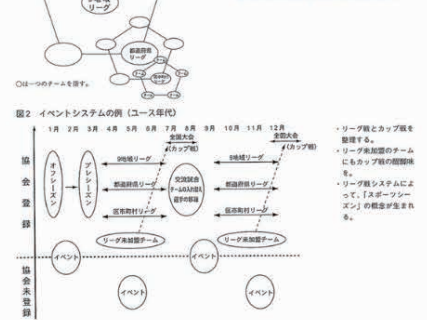


図3 スポーツのシーズン制と複数種目に関わるスポーツライフ

ユース年代によってどのようなシーズンが望ましいかはさまざまな意見があるが、シーズンオフも重要な年単位により選手を休ませるべきという考えは必ずしも一致しない。サッカーのシーズン制をより柔軟に捉え、オフシーズンも種目別の「スポーツのシーズン」を考えると大きなメリットがある。

◆DUOリーグの理念と底辺からの組織化

このような発想で、東京都文京区・豊島区で「DUOリーグ」と名付けられたU-18サッカーリーグをはじめました。大事なのは理念を掲げ、その実現に力を注ぐことです。ただ試合をこなすだけではありません。サッカーの生活化、チームからクラブへ、レベルアップ、自主運営と受益者負担。文化としてのサッカーのあり方を推進していくのがリーグ戦であり、スポーツ本来のあり方です。

1996年4月から7月末まで、6クラブ10チームではじめました。高体連だけでなく、三菱養和、クラブユースも一緒にやっています。「はじめればはじまる」ことがわかりました。1学期にやってみてよかったので、2学期に後期リーグを行うことになりました。後期から「入れてほしい」と言ってくるころには理念とビジョンを伝え、「同志」であることを確認した上で加盟を認める形をとりました。リーグに加盟すれば試合ができるというだけではダメです。指導者が理念とビジョンを共有することが不可欠です。このようにして広げていきました。

「小さく立ち上げ、大きく育てる」方針です。東京都全域でDUOリーグモデルのリーグをつくる動きをはじめました。そのとき構想していたのが次の図です。全国レベルの大会、高体連で言えばインターハイがあって選手権があります。そこへ向けての予選は、負ければ終わりのノックアウト方式のカップ戦です。これはあってもいい。だけど日常生活の中にあるのは、学校の1学期と2学期で前期、後期に分かれ、地域別、レベル別で展開されるリーグ戦です。そうすると3学期がオフシーズンとプレシーズンになります。この時点では、サッカーのオフシーズン、プレシーズンのイベントとしてフットサルなどの単発大会があればいいという感じで、東京都でU-18フットサル大会を企画しました。サッカーのトレーニングとしてのフットサルという考えでした。

連載の中では、他のスポーツにもリーグ戦文化をしっかりと広げていくことにも言及しています。サッカータレントのA君は、年間通してサッカーをやればいい。けど普通のスポーツ好きのB君は、年中サッカーに縛られることはない。1学期はバスケットボールのリーグに出て、2学期はサッカーのリーグに。このようなマルチスポーツライフができる環境になれば少子化にも対応できるだろうと考えていました。

DUOリーグの理念

—文化としてのサッカーのあり方—

1. 「歯磨き感覚」「引退なし」のスポーツライフ
サッカーの生活化
2. 「補欠ゼロ」のゆたかなクラブ育成
チームからクラブへ
3. 強いチームとたくましい個の育成
レベルアップ
4. サッカーをささえる人材の育成
自主運営と受益者負担

DUOリーグの誕生(1996)

02月のサッカー医科学研究会で示した構想を、文京区と豊島区の高校サッカー部、クラブユースの“同志”に伝え、具体化。

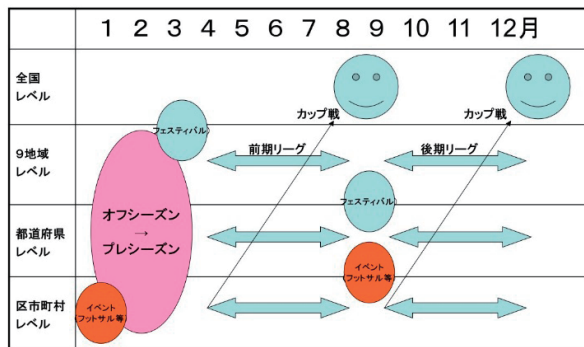
04～7月に6クラブ10チームで開幕

都小石川(2)、都向丘、筑波大附(2)、京華、昭和一(3)、三菱養和
この構想を面白がる、“遊び心”ある大人たちが、“Face to Face”でお話しながら作り上げた。

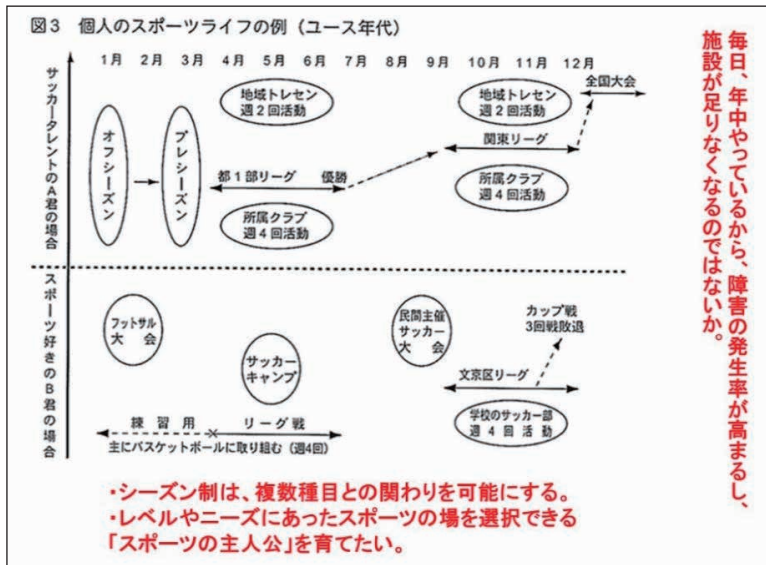
0DUOリーグに「入れてほしい」と言ってくるころには、理念とビジョンを伝え、「同志」であることを確認した上で加盟承認

「小さく立ち上げ、大きく育てる」

リーグ戦を基盤としたユースサッカー構造 (私案)



いまバスケットボールなどいくつかのスポーツでユースリーグが少しずつ始まっているようです。それはいいのですが、しっかりした理念を理解してやっているのが心配です。ユースリーグを始めた私たちですら、“魂”を伝えきれていないのではないかと思います。もうあります。



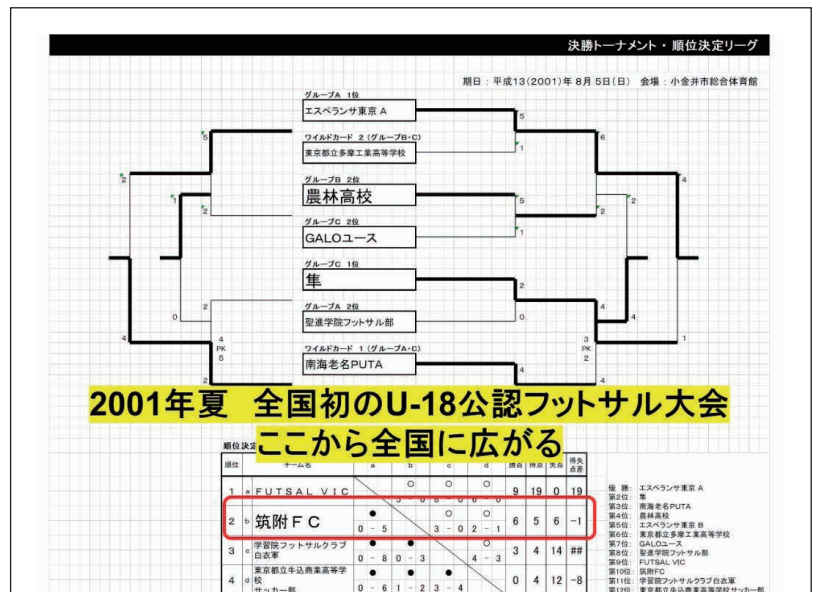
の学校でもそうです。1994年にFIFAがFive-a-side footballをフットサルと定め、1995年度から国内のフットサル大会がはじまり、民間施設もできはじめ、フットサルが徐々に浸透してきた時期です。一方で、高体連のサッカー大会で人数不足で出場できないチームが増えてきたこともあります。11人集めるのが難しくなってきたのです。けど5人ならできるだろうということで、2001年度事業としてTFAフットサル委員会でU-18のフットサル大会を開催しました。この頃、おそらく玉生さんもTFAフットサル委員2種部会のメンバーだったと思います。

◆東京都におけるU-18フットサル

ここからは東京都の話になります。私はU-18年代のサッカーにずっと関わってきましたが、同時に東京都サッカー協会(TFA)フットサル委員会の2種年代(U-18)担当で、いまもユース部会長を務めています。大人や少年の大会は次々に生まれましたが、U-18年代については何もない状況が続いていました。

ちょうど2000年度末のTFAフットサル委員会の中でこんな議論がありました。東京都内に民間フットサル施設が結構ありますが、そこで高校生が大勢プレーしている。部活がしんどくて辞めた者や、高校で部活に入ると大変だから中学時代の友達でチームを作ってボールを蹴っている人たちだろうということです。それから、いくつかの学校でフットサル同好会ができてはじめていました。私

第1回大会の2日目の結果です。初日は4チーム×3グループの総当たり戦、2日目は順位決定戦です。大会ごとにチーム登録をする制度でしたので、多種多様なチームが集まりました。「やんちゃな奴ら」がたくさんいて、試合に負けた腹いせで更衣室を蹴っ飛ばし



U-18フットサル大会創設の経緯
 それは2000年度末、TFAフットサル委員会の議論から始まった

- ◆「都内の民間フットサル施設で、高校生が大勢プレーしている」
- ◆「いくつかの学校で、フットサル同好会ができています」
- ◆「高体連のサッカー大会で、人数不足で出場できないチームが増えてきた」

↓

2001年度事業としてU-18フットサル大会を開催！

東京都U-18フットサル 最初の10年(2001~10)

回数	チャレンジ U-18 (夏)	都ユースU-18 (冬)	回数	U-18リーグ1部
1	Esperanza Tokyo A	府中アスレティックFCコレット		
2	府中アスレティックFC U-18	府中アスレティックFCコレット		
3	FC東京 U-18	ACコマ		
4	ガロFC U-18	ラルゴFC U-18		
5	タボス	FC東京 U-18		
6	ガロFCトキョU-18	フォックスFC		
7	ボアSC	目黒エドリュージュン	プレ	BOA SPORTS CLUB
8	FC無我	FC無我	1	BOA SPORTS CLUB
9	FOOTBOZE FUTSAL U-18	国学院久我山高校	2	FOOTBOZE FUTSAL U-18
10	十条FC U-18	FOOTBOZE FUTSAL U-18	3	FOOTBOZE FUTSAL U-18

普及目的の夏の大会 競技志向の冬の大会 自主運営のリーグ戦

たり、なかなか大変でした。そもそも小金井市総合体育館という公共施設を借りること自体、市民権を得ていないフットサルにとっては大変でしたが、とにかくはじめました。筑波大学附属高校フットサル部門も「筑附FC」として出場しています。

夏に実施した全国初のU-18公認フットサル大会は、大変ではあったがなかなか良く、冬もやろうということになって1月に実施しました。これ以降、夏と冬の短期イベントとして両大会はフットサル委員会事業として続いています。

最初の10年で、普及目的の夏の大会、競技志向で東京都チャンピオンを決する冬の大会が定着します。サッカーをやっている人も、サッカーリーグのオフシーズンにフットサルをやろうということでこの時期に大会を持ってきました。そして、単発的なフットサル大会をやっているうちに、もっとフットサルをやりたい人たちが「リーグ戦をやりたい」と考えるようになります。

東京の大会回数はそのまま年度を表しています。夏と冬の第1回大会が2001年です。この大会が第7回を迎えた2007年度にプレリーグがはじまり、2008年度から公式リーグとしてスタートします。

夏と冬の大会の優勝チームを見ていくと、FC東京U-18や國學院久我山高校といった、バリバリのサッカーチームの名が見られます。こういうところもタイミングが合えば参加していました。國學院久我山はい

まも、高校3年生で進路が決まっている人たちが冬の大会に出場しています。

10年経過したときに、次の10年は「横と縦への広がり」を目指すことを掲げました。本多さんはじめ、全国各地で、あるいは協会や連盟でU-18フットサルに携わる方と相談しながら、全国大会の開催に向けて動き出しました。そしていまに至るわけです。

2011年4月1日 発行

◆「次の10年」は「横と縦への広がり」を

ユース年代のフットサルを盛り上げよう！

①横への広がり...“関東”そして“全国”への拡大
→ 隣県との交流から全国大会の開催へ

②縦への広がり...“底辺”から“頂点”までの拡大
→ 多様なレベル・ニーズに応じた事業

U-18

(財)東京サッカー協会 フットサル委員会
「東京都におけるU-18フットサル大会10周年記念シンポジウム」資料
2011年2月5日(土) 駒沢陸上競技場会議室

東京都でやっているフットサル大会の優勝チームをみていくと、勢力図がよくわかると思います。Fリーグが2007年にでき、その下部組織でフットサルに専門的に取り組むところが優勝するようになります。東京ではサッカーとフットサルの分化が、トップレベルにおいては進んでいると言えるでしょう。

飛躍の15年(2011~2025)

			回数	チャレンジ U-18 (夏)	都ユースU-18 (冬)	回数	U-18リーグ1部
2011			11	府中アスレティックFC U-18	國學院久我山高校	4	府中アスレティックFC U-18
2012			12	府中アスレティックFC U-18	國學院久我山高校	5	FOOTBOZE FUTSAL U-18
2013	回数	JFA全日本ユース	13	FCバブル U-18	FCエルグ アッパ	6	FOOTBOZE FUTSAL U-18
2014	1	関東第一高校	14	FOOTBOZE FUTSAL U-18	FOOTBOZE FUTSAL U-18	7	FOOTBOZE FUTSAL U-18
2015	2	FOOTBOZE FUTSAL U-18	15	府中アスレティックFC U-18	國學院久我山高校B	8	FOOTBOZE FUTSAL U-18
2016	3	FOOTBOZE FUTSAL U-18	16	フウガドールすみだファルコンズ	FOOTBOZE FUTSAL U-18	9	FOOTBOZE FUTSAL U-18
2017	4	フウガドールすみだファルコンズ	17	フウガドールすみだファルコンズ	國學院久我山高校	10	フウガドールすみだファルコンズ
2018	5	フウガドールすみだファルコンズ	18	ASV PESCODOLA町田 U-18	ASV PESCODOLA町田 U-18	11	ASV PESCODOLA町田 U-18
2019	6	フウガドールすみだファルコンズ	19	ZOTT WASEDA JUVENIL	ASV PESCODOLA町田 U-18	12	ASV PESCODOLA町田 U-18
2020	7	中止	20	中止	中止	13	ASV PESCODOLA町田 U-18
2021	8	ZOTT WASEDA JUVENIL	21	交流大会	中止	14	ZOTT WASEDA JUVENIL
2022	9	フウガドールすみだファルコンズ	22	交流大会	フウガドールすみだファルコンズ	15	フウガドールすみだファルコンズ
2023	10	フウガドールすみだファルコンズ	23	交流大会	フウガドールすみだファルコンズ	16	フウガドールすみだファルコンズ
2024	11	フウガドールすみだファルコンズ	24	交流大会	FOOTBOZE FUTSAL U-18	17	フウガドールすみだファルコンズ
2025	12	ASV PESCODOLA町田 U-18	25	交流大会	出場チーム募集中	18	現在実施中

- ・Fリーグの下部組織が躍進(東京都は全国レベル)
- ・サッカーとフットサルの分化が進む ⇒ スケジュール問題は重要

2008年度を第1回とする東京都U-18リーグの優勝チームも表にあるとおりです。

JFA キャプテンズミッションでこの取り組みを紹介したこともあり、全国各地で少しずつU-18 フットサルリーグが整備されてきました。そして各地のリーグチャンピオンが集まる「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」が、今年で10年を迎えるということです。

◆ U-18 フットサルの全国大会

2012年3月にオーシャンアリーナで開催された「U-18 フットサルトーナメント」が、U-18 フットサルの全国大会の先駆けと言えるでしょう。法人化前のサロン2002が深く関わりました。翌年度の大会では、中日にサロン2002 公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう！」を開催し、当時のJFA フットサル委員長や日本フットサル連盟(JFF) 専務理事にもご登壇いただきました。U-18 フットサルの今後について前向きな意見が交わされ、JFA や JFF 主催大会に繋がります。

単独チームの日本一を決める大会として、JFA 全日本U-18 フットサル選手権大会が2014年度から開かれています。フウガドルすみだファルコンズが、こちらでも3連覇を達成しています。

2015年度にはじまる「GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント」はJFF主催の公式大会です。各地域の目標となる貴重な大会でしたが、財政難やコロナ禍など、諸事情から開催できなくなりました。再開の要望は各地域から多く、兵庫FF主催で再開されましたがJFFの方針は不透明です。

このように、協会や連盟主催の全国大会は徐々に整備されましたが、最も大切なのは日常生活の中にフットサルがある環境を作ることです。各地域にU-18 フットサルリーグが育つようにとの願いで、リーグチャンピオンが集まる全国大会を、toto 助成を受けてNPO 法人サロン2002ではじめました。まだ全国各地にU-18 リーグが整備されているわけではないので、我々のNPO が担い手となっていますが、いずれは協会や連盟が主催できるようにと願っています。



ユースフットサル選抜トーナメント
 2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。
 2015年からは「GAVIC CUP」に名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟(JFF) 主催、サロン2002共催(2017年まで)で、全国9地域から選抜された12チームで開催。2018年度を最後にJFFが外れて開催されず。
 2012年 名古屋オーシャンズU-18(愛知) / オーシャンアリーナ
 2013年 瀬戸内高校(広島) / オーシャンアリーナ
 2014年 幕張総合高校(千葉) / 駒沢体育館
 2015年 愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館
 2016年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
 2017年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
 2018年 U-18神奈川県選抜/和歌山ビッグホエール
2023年3月に兵庫県フットサル連盟(FF)主催で開催。U-18愛知県選抜が優勝
2024年3月にも兵庫FF主催。静岡県U-18選抜が優勝(ともにグリーンアリーナ神戸)
2025年3月は和歌山県?! (開催されず) その先は…?



JFA全日本ユース(U-18)フットサル選手権大会
 ①2014年 聖和学園FC(宮城) / 大田区総合体育館、墨田区総合体育館
 ②2015年 岡山県作陽高校(岡山) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 ③2016年 帝京長岡高等学校(新潟) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 ④2017年 矢板中央高等学校(栃木) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 ⑤2018年 帝京長岡高等学校(新潟) / ゼビオアリーナ、カメイアリーナ仙台
 ⑥2019年 ベスカドラー町田U-18(東京) / 浜松アリーナ
 ⑦2020年 中止
 ⑧2021年 京都共栄学園高校(京都) / 京都市体育館
 ⑨2022年 ベスカドラー町田U-18(東京)・遊学館高校(石川) / 三重県サオリーナ
 ⑩2023年 フウガドルすみだファルコンズ(東京) / 浜松アリーナ
 ⑪2024年 フウガドルすみだファルコンズ(東京) / 浜松アリーナ
 ⑫2025年 フウガドルすみだファルコンズ(東京) / 浜松アリーナ
 ※年/優勝チーム/会場

過去9回の優勝チームと会場は下表のとおりです。第3回大会から、「ことぶきアリーナ千曲」で開催しています。宿泊も千曲市の戸倉上山田温泉と連携し、「温泉街をスポーツで盛り上げよう！」という視点で取り組んでいます。

ということで、ここから問題提起をして、私の話を締めたいと思います。



第1回 2017年 1月6日㊟、7日㊤ **エコパアリーナ(静岡県)** 8チーム
 優勝: **HeroFC U18F(静岡県)**
 第2回 2018年 1月6日㊤、7日㊟ **武田パルオーシャンアリーナ(愛知県)** 12チーム
 優勝: **SANTOS FC18(愛知県)**
 第3回 2019年 1月5日㊤、6日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 12チーム
 優勝: **京都橋高等学校(京都府)**
 第4回 2020年 1月4日㊤、5日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 16チーム
 優勝: **シュライカー大阪 U-18(大阪府)**
 第5回 2021年 1月9日㊤、10日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 16チーム
 優勝: **ベスカドラー町田U-18(東京都)**
 第6回 2022年 1月8日㊤、9日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 16チーム
 優勝: **フウガドルすみだファルコンズ(東京都)**
 第7回 2023年 1月7日㊤、8日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 16チーム
 優勝: **フウガドルすみだファルコンズ(東京都)**
 第8回 2024年 1月6日㊤～8日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 16チーム
 優勝: **フウガドルすみだファルコンズ(東京都)**
 第9回 2025年 1月11日㊤～13日㊟ **ことぶきアリーナ千曲(長野県)** 16チーム
 優勝: **フウガドルすみだファルコンズ(東京都)**

◆「ユース年代のサッカー」の現状と課題

－東京の事例から

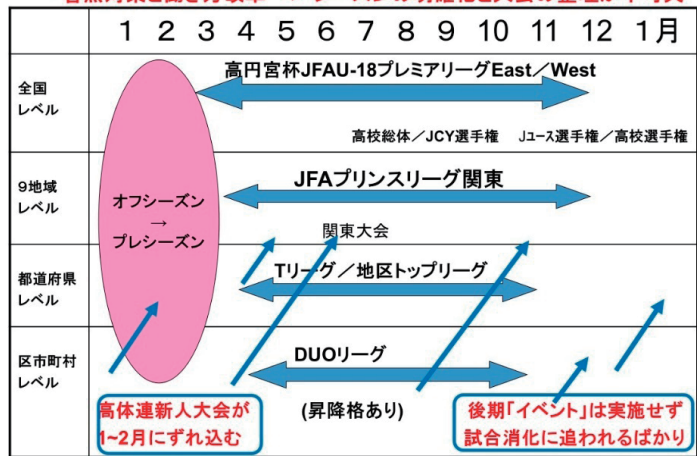
右図は 2024 年度の、東京都高校サッカー部の年間計画のイメージです。リーグ戦がレベル別に設けられています。TFA 公式の「Tリーグ」は T1～T4 の 4 部制。その下に地区トップリーグがあります。2025 年度からは地区トップリーグが T5 となりました。高体連の大会はすべて、負ければ終わりのノックアウト方式です。この図では斜めの矢印で示しました。リーグ期間の合間にカップ戦があり、インターハイ予選は 4 月末から 6 月まで。インターハイは 7 月末から 8 月。選手権の予選は負ければ終わりですが、勝つと 8 月末から 11 月中旬までずっと続きます。そして高校選手権予選が終わったところで新人戦が地区ごとに始まります。以前は年内で終わっていましたが、それが 1 月にずれ込むようになりました。新人戦を勝ち上がったところが 4 月からの関東大会予選に出られます。オフシーズンもプレシーズンもありません。とにかく試合消化に追われるばかりです。サッカーだけでこうです。

ここにフットサルの大会が加わります。はじめは「サッカーのオフシーズンにフットサルをやろう」と言っていました(黄土色の楕円形)が、フットサルを本格的にやりたい人たちのリーグ戦が 5～12 月に入ってきます(黄緑の矢印)。だから東京では、サッカーとフットサルの両方のリーグに出場することは無理ですね。JFA 全国大会とその予選(緑)、リーグチャンピオンズカップ(黄緑)。これに加えてここ最近では、東京都フットサル連盟主催の「東京都高校フットサル選手権(黄土色の赤枠)」もはじまり、込み込みになっています。整理していかないといけない状況です。

暑熱環境対策で、FA 主催の 7～8 月のサッカー大会はできなくなりました。各連盟主催大会については連盟ごとの判断に委ねられるようですが、サッカーだけ、フットサルだけでなく、ユース年代の育成(日常生活)はどうあるべきかを、広い視野で考えて意見交換しなくてはなりません。

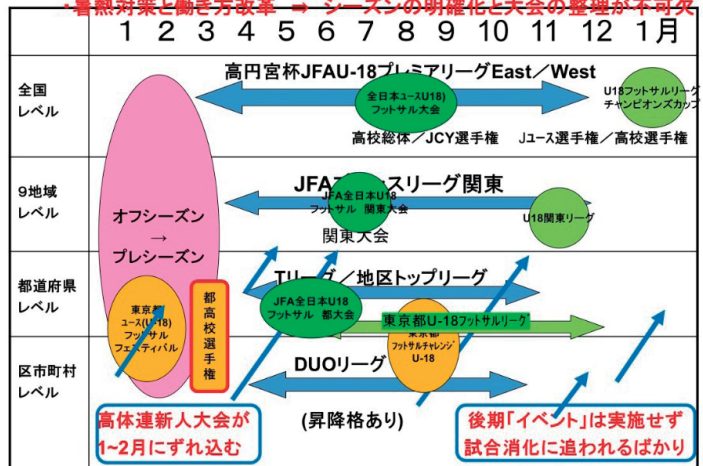
リーグ戦を基盤としたユースサッカー構造 (2024年度の東京都の高校/U-18男子のスケジュール概要)

・形は整ったが“遊び心”や“ゆとり”喪失
・暑熱対策と働き方改革 ⇒ シーズンの明確化と大会の整理が不可欠



リーグ戦を基盤としたユースサッカー構造 (2024年度の東京都の高校/U-18男子のスケジュール概要)

・形は整ったが“遊び心”や“ゆとり”喪失
・暑熱対策と働き方改革 ⇒ シーズンの明確化と大会の整理が不可欠



最後のスライドです。これは 2013 年 3 月の公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう！」で示した問題提起です。まったく同じことを今回も提示したいと思います。

U-18 フットサルを「いつ」やるのか？ リーズ期間がシーズンです。サッカーとフットサルをどのように位置づけるのか。暑熱環境対策もあります。曜日や時間帯の話では、ふつうの高校生の生活を前提として考える必要があるでしょう。

「どこで」やるのか？ 特に学校体育館の開拓は不可欠です。

「誰が」やるのか？ サッカーもフットサルもやっ

「U-18フットサル」のこれから

公開シンポ「U-18フットサルを語ろう！」より(2013年3月30日)

■いつ？

シーズンは？ → サッカー（既存の競技会）とどうすり合わせるか
曜日は？ 時間帯は？ → リーグ戦を行う際に調整が必要

■どこで？

体育館？ 人工芝？ → 学校体育館をどうやって開拓するか

■誰が？

サッカー部員？ フットサルに特化？

「U-18」とは誰のこと？（高校生？第2種？ 18歳未満？以下？）

■何を？ = 「フットサル」にはどのような条件が必要？

ボール？ ルール？

■どのように？

公と私の違いは？ 担い手（組織）は？ 高体連との関係は？²⁰

てほしいけど、誰に対してなのか。U-18年代であればフットサルに特化する者がいてもいい。ではU-15は？ U-12は？

II. 全国高体連サッカー専門部長より（玉生謙介）

皆さんこんにちは。全国高体連サッカー専門部の部長を務めております玉生と申します。シンポジウムで話をする時間をいただきましてありがとうございます。

以前から中塚先生に話をしてほしいということで、もちろん準備はしていたんですけど、きちっと準備しようかなと思った時に、ここ最近騒がせてる事件が起きました。皆さんいろいろご承知かと思いますが、その対応に時間を割いてしまいました。

ということで資料もないような状態です。中塚先生が準備されたカレンダーを拝借しながらお話ができればと思っています。

◆高校サッカーの現状①

— 直近の高校選手権をめぐる —

高校サッカーの現状ということでは、ここ最近僕を忙しくさせた、そういう事件が起きるということが現状なんだと思います。今日の話とはずれてしまうかもしれませんが、少し話をさせてもらいます。

高野連とは違って、辞退するとかしないかについて、学校の判断を尊重するというので全国高体連はやっています。これはサッカーだけの話ではありません。全国高体連に加盟している団体はすべて、学校の判断を尊重してやっています。こちらが出ていいよ、出ちゃダメということとはしていません。それが大原則です。

まずは仙台育英の話が出てきました。あのくらいの

「何を？」というのは、「フットサル」と言うためにはどのような条件が必要なのかということです。体育館でないと、プレーイングタイムでないといけないのか、ということも含まれます。

「どのように？」も重要です。とくに担い手問題。

12年前のシンポジウムで問題提起したことはいまも検討のための視点になっていると思います。

おそらく全国高体連サッカー専門部の部長をされていると、このようなことよりもっと目の前に直面する課題がたくさんあると思います。このあたりで玉生さんにバトンタッチしたいと思います。

話だと、ここ数年の流れだと出る方向だったと思います。でも、今夏の甲子園、広島が辞退したあたりから、何となく世間の考え方というか流れが少し変わってきたなと感じています。そして仙台育英が、新人戦とプリンスリーグを辞退したという話を聞きました。それが11月7～8日あたりです。となると辞退という可能性はかなり高いなと私は感じました。選手権の要綱の中には、辞退したチームが出てきた場合の対応についてのルールがありません。なので早急に実行委員会を開いて、辞退した時にはどうすればよいかを決めなくてはならないということで動きました。結果として、繰り上げで準優勝チームを出場させるということになりました。その後、準優勝チームの聖和学園に打診して出場が決まりました。繰り上げなしでやろうと考えたときもありましたが、いろんな方と話をさせてもらい、繰り上げありを決意しました。聖和学園はまだプリンスリーグを戦っていてあのチームはまだ解散していない、選手権予選は負けただけ、今だったらチームとして十分準備ができていて全国大会にも出られるだろうと。大会としても、やはり各地域から代表を全部揃えた48チームで行いたいという思いがありました。代理で繰り上げ出場したチームが全国大会を経験することも、人生において大きな経験、財産になるだろうとも考えました。そういうことを踏まえて決断しました。いろいろとありましたが、ざっくりとこんな流れです。

この判断でいろんな問題が出てくるだろうという心配はありました。やはり聖和学園についても、メディアから報道が出てきました。出てきたら出てきたで、ここでたまったうみをしっかり吐き出して、健全な環境ができていけばいいのかなと思っています。

というところで、選手権をめぐる話題でした。

◆高校サッカーの現状②

ーインターハイをめぐる

高体連としての大きな課題はインターハイですね。どうするか検討を重ねているところです。

7月、8月にJFAが主催大会を開かないということを宣言しました。高体連などの連盟大会については、判断はそちらに任せるといったようなことで、とりあえずインターハイは続けているわけです。

高体連のインターハイは、いまは地域ブロックの持ち回りでやっています。サッカーもそこにくっついて一緒に回ってやってきたわけです。ただ、地域によってはめちゃめちゃ暑い大会、もしくは雷雨とか、そういうのに悩まされた大会がここ数年、かなり多くありました。このままじゃやばいよね、どこか涼しいところ

でやろうよ。涼しいところなどなかなかありませんが、少しでも環境のいいところで固定開催にしていかないと、いつ重大な事故が起きるかわかりません。男子は幸いにして大きな事故は今までなかったのですが、女子は救急搬送されるような事例がやはり出てきました。

そういうことも含めて、環境のいいところでやらないとまずいなということで、かなり前から話を進め、昨年度から、男子に関しては福島県Jヴィレッジを中心としたところで固定開催、女子に関しては北海道。去年と今年は室蘭で、来年度も一応北海道でやることにはなっています。しかし旭川に変更されました。旭川も夏は相当暑くなっていて少し心配です。そのような形でインターハイに関してはやっています。

Jヴィレッジは、東京から出ていくと全然涼しいと感じるぐらいです。WBGTの値も、去年より今年の方が若干数値的にはよかったです。行っても28ぐらい。30に行くことがありませんでした。海沿いということもあり、暑い地域から行くと、全然涼しいじゃん、これだったらいいよねってような感じですよ。まあWBGT28度という数値がいいのか悪いのかという考えはあると思いますが、このくらいの数値だったら、かつてのインターハイとさほど変わらないし、鍛



えられた高校生だったらやれるよねという環境だったと思います。とは言え、日本全体で見ると、気温40度が当たり前の世の中になってきました。Jヴィレッジも、WBGTの値が30になるような年があるかもしれません。そんな中で無理やり大会をやって、もしかしたらというようなことが起きてもおかしくないと想像できるような、日本の環境になったと思います。

ということで、JFAがやめたということもあるし、高体連としても、今後インターハイをどうしていくのかというのを真剣に考えているところです。

インターハイ、7月、8月は厳しいよね、7月、8月にインターハイはできないだろう。

そういう選択肢を持ちつつも、現状では何とか、もっといい方法はないかということを探りながら、できる限りインターハイは続けていきたいと考えているところです。

ただ、僕は部長ですが、部長を外して個人の思いを言うと、いつかやれなくなる日は来るという考えでいます。そうなった時に、カレンダーは大きく変わるのかなと思っています。

先ほどのカレンダーを出してもらえますか。

◆ U-18のカレンダーを見ながら

このカレンダーですね。リーグ戦は、中塚先生が始められたDUOリーグがここまで展開されています。一番上はプレミアリーグ。そして9地域ごとのプリンスリーグ。各都道府県、東京都ならTリーグ。地区トップリーグは残念ながら今年からTリーグ、T5に変わってしまいました。その下にDUOリーグを含めた地区リーグがあるリーグ構造です。リーグ戦が充実

するのはすごくいいんです。めちゃめちゃいい話だと思うんですけど。過密なんです、サッカーも。夏休みに全国大会があり、12月末～1月にも全国大会があり。たぶん上に行けば行くほど休みがないような状態で、1年間を過ごしています。

私のチームはいまT5にいますけど、そのレベルでもほぼほぼまとまった休みは取れません。何とか夏休みと年末のところで1週間ぐらいの休みは取っていますが、次の大会のことを考えると、1ヶ月まとめて休むようなことができるカレンダーではないと思います。

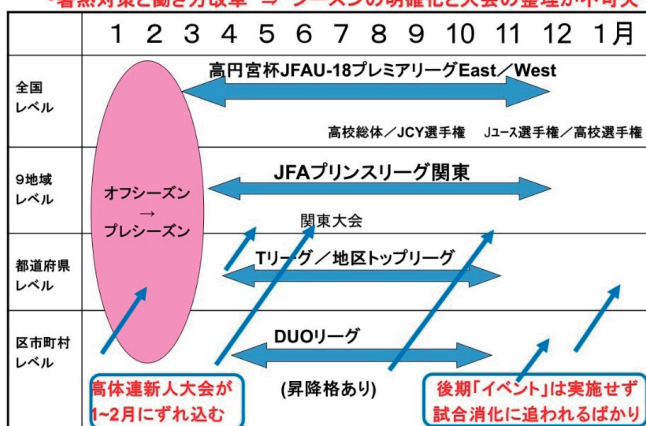
東京で言いますと新人戦が、今も筑波大附属のグラウンドでやってますけど、11月から始まり年内で一回閉じて、1月に再開するようになりました。再開することを考えると、年末に悠長に「1ヶ月も休んでられないぞ」というようなカレンダーになっています。大きく1ヶ月、2ヶ月ぐらいの単位で休んでオフシーズンを作ると考えると、インターハイがもし7～8月にやらない、なくなるということがあれば、7月を丸々オフシーズンにして9月から再開するリーグ戦に向けて8月からぼちぼち動く、プレシーズンというところになっていくのかなと思います。この図で想定されている1～2月じゃなくて。インターハイがなくなるようになれば、そのあたりがオフシーズンになっていくのかな。とすると、今日はこの後フットサルの話題もいっぱいあるかと思いますが、夏は暑いので室内に入ってフットサルをその時期にやろうか、みたいな流れが出てきて、フットサルとサッカーの融合が出てくるのかなと思います。

ちなみに、全国委員長会議というのを年に2回やらせていただいていますけど、その中の議題にフットサルという言葉が入ったことは一度もないと思います。

サッカーの話しかしてないです。東京都高体連サッカー専門部の会議では、いまフットサル担当の先生がいて、先日も「こういう大会が夏にありますのでよろしく願います」というようなことを言っていました。東京都に関しては、少しずつそうやってフットサルも話題に上がってくるような状況になったかなと思います。

まあとにかくカレンダーですね。カレンダーはやはりこれから見直していかないと。健全なというか、オフシーズンを持ったゆとりのあるサッカー環境というのはなかなか現実的には難しいところかなと思います。

リーグ戦を基盤としたユースサッカー構造
(2024年度の東京都の高校/U-18男子のスケジュール概要)
・形は整ったが“遊び心”や“ゆとり”喪失
・暑熱対策と働き方改革 ⇒ シーズンの明確化と大会の整理が不可欠



こんなところに触れてほしいということがあれば、中塚先生から突っ込んでいただき、お答えしたいと思います。

中塚：では小さなツッコミですが…。

玉生さんは学習院高等科サッカー部の顧問でもあります。去年まではこの図の一番下にある DUO リーグ 1 部において、昇格して一つ上の都道府県レベル、去年までは「地区トップリーグ」と言っていたものから T5、つまり東京都サッカー協会公認リーグの 5 部に昇格したわけ。TFA 主催事業の枠の中に入ったことで、先ほどの「担い手」の話と関係してきますが、自分たちでやっていた DUO リーグとはいろいろ変わってくるわけ。DUO リーグでは参加費が 1 チームあたり 2 万円ぐらいだったと思います。2 チーム出しているクラブは、チーム数に応じて 4 万円となるわけ。これが、TFA の公認リーグになると、審判も公式に派遣されるという流れの中で、加盟費や参加費が爆上がりしたという話をお聞きしました。そのあたりの補足を願います。

玉生：DUO リーグは参加費 2 万円。DUO リーグ以外の地区リーグだと、参加費を取ってないようなところもあります。ちゃんと参加費を集めて審判費を払えよるようにしようよというところもまだあります。地区リーグとしての DUO リーグから昇格し、今年は T5 になりました。参加費は一気に 13 万円に上がりました。

昨年度までの地区トップリーグは 6 万円だったんです。地区トップリーグは TFA 主催でなく、DUO リーグのように自主運営していたリーグなのですが、今年度から TFA 主催となって T5 になった途端、13 万円になりました。地区トップリーグとやっていることは変わらないのですが、このあたりは見直しが入るかと思えます。

お金という側面も、やはり段階を経ていくべきだと思います。2 万円だったものが一気に 13 万円になるというのは、とても考えられない話だと思っています。昇格して上のリーグでやりたいんだけど、とてもじゃないけどそんなお金は払えない。お金がないから参加できないチームも出てくるような価格設定だと思います。

13 万円には審判費が含まれていないので、これ

に加えて、T5 だと 2,500 円× 9 試合分の審判費を、毎試合持ち出して払っていかないといけないといった現状ですね。

中塚：DUO リーグ創設期の話にもありましたが、DUO リーグではあえて参加費を徴収しました。なぜかと言うと、自分たちのリーグ戦を長続きさせるためです。そのため、ささえる活動にもしっかりペイしていこうということで、審判をしてくれる高校生にも、主審 1,000 円、副審 500 円ぐらいでしかありませんが、その分をみんなで出し合って続けていこうというものです。私が顧問をしていた筑波大附高では、リーグ戦参加費を部員で頭割りして「各自が小遣いから出すこと」としていました。

都内 8 地区でそれぞれ地区リーグを組織したのですが、いま言われたように、お金を発生させないで、練習試合の組織化としてやっているところもあります。グラウンドを持っている学校ならそれでいけるのかもしれませんが。けどグラウンドのないところは難しいですね。

これがオフィシャル化したときに、会場もオフィシャルに、審判も派遣してもらうような形になり、とにかくお金がかかってくる。のちほど東京都や富山県のフットサルリーグでもお金の話が出てくと思いますが、担い手がどこなのか、高校生や中学生年代が参加する大会の参加費はどれぐらいが妥当なのかということも、一つの論点になってくるかと思えますね。

玉生：東京だからこその問題だというのはすごく感じています。他の地域、他の県で「いくらでやってるの」と聞くと、全然かかってないんです。「10 数万かかっている」と言うと「えーっ」で驚かれます。東京は施設が少ないんです。公共の施設を押さえるのにお金がかなりかかっているんですね。それでそういうお金になってるというのが現状ですね。

中塚：どうもありがとうございました。全国のホットな話題から個人的な意見まで、ざっくばらんに語っていただきました。

いまの話のつながりで、富山県の事例をご紹介いただきたいと思います。こちらの会場には富山県の高体連サッカー、U-18 フットサルを共に担っておられる橘和徳さんが来られています。

Ⅲ. 各地域よりー富山県と東京都の事例

1. 富山県のユース年代のサッカー・フットサルはいま (橘和徳)

富山県から来ました橘和徳と申します。よろしくお願いいたします。「富山県のユース年代のサッカー・フットサルはいま」というスライドを作らせていただきました。富山県フットサル連盟理事 (U-18 担当) をさせていただきます。

1 枚目の写真は、2024 年 3 月にグリーンアリーナ神戸で開催された U-18 フットサル選抜大会に、監督という立場で富山県 U-18 選抜を連れて参加した時の写真です。卒業したばかりの高校 3 年生もいるんですけど、全員がサッカー選手です。富山の場合は東京とは異なり、サッカーとフットサルの「分化」が進んでいない状態です。サッカーもフットサルもやってもらう。両者の融合というところを目指し、フットサルで得たものをサッカーに活かし、サッカーのいい子たちをフットサルでも活躍してもらうといったことをいま考えてやっているところです。

指定発言者として 10 分間ほどお時間をいただきましたので、自己紹介から、富山県の U-18 サッカーとフットサルの現状、富山県の特徴や問題点、フットサルとサッカーの融合といった話をさせていただきます。

◆自己紹介

1986 年生まれで 39 歳になりました。富山県立富山中部高校を卒業し、現在母校で働かせていただいています。保健体育科の教員です。筑波大学体育専門学群に入学し蹴球部でゴールキーパーをしておりました。その後大学院まで進んで筑波大女子サッカー部の GK コーチをしながら、体育科教育学研究室で、体育の授業はどうするのか、体育の先生を育成するにはどうすればよいかというようなことをやっていました。

自己紹介

NPO 富山県フットサル連盟
www.npo-toyama-futsal.org

- 1986年 富山県出身
- 2005年 富山県立富山中部高校 卒業
- 同年 筑波大学体育専門学群 入学 蹴球部所属
- 2009年 卒業
- 同年 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻 入学 女サカGKコーチ
- 2011年 修了
- 同年 (一社) 地域スポーツシステム研究所 (金沢市)
- NPO法人 クラブパレット (かほく市)
- 2012年 富山県公立学校教員採用 (保健体育)
- 上市町立上市中学校 (3年)
- 富山いずみ高校 (4年)
- 県教育委員会保健体育課 (高岡市派遣) (1年)
- 富山中部高校 (6年目) →教員 1 4 年目



教員採用試験には受かると思っていたのですが甘くはなく、1年間はNPOの総合型地域スポーツクラブで働かせていただきました。この時に「スポーツって幅広いんだな」ということを実感しました。

地元に戻ってサッカー部の監督をしたいという思いだけでいたんですけども、最初に中学校に採用されて3年間、それからなぜか高校に異動します。富山の場合は中高一括採用で、中学校に入ったら大体そのまま中学校で続けるのですが、なぜか高校に異動させてもらいました。その後、県教育委員会に1年間いて、いま母校の富山中部高校に勤務し6年目になります。

肩書きの話では、富山県高体連の中にはサッカー専門部が当然あり、いまは副委員長としてリーグ戦の担当をしております。兼フットサル委員です。これは富山いづみ高校に異動して以降、当時の専門委員長から、「全日本ユースU-18フットサル大会が開催され、そこに向けた県大会をやらなきゃいけないからあなた担当ね」と言われまして、2015年あたりに担当となりました。先ほどの玉生先生の話でも出てきましたが、富山県では高体連サッカー専門部の中にフットサル委員会があり、これは他の都道府県では珍しいとお聞きしています。これが、ことをうまく進めている要因だということ、後でお話させていただきます。

富山県高体連では副理事長にも就いています。なぜかというと、高体連には研究部という組織があり、その委員長をせよということで。何かいろいろと、「やれ」と言われたことには「イエス」か「はい」か「喜んで」しか言いませんので、そういう感じでやっております。

サッカーでゴールキーパーをしており、GKコーチもしたいなと思い、2013年から県トレセンでずっと関わっていました。富山県サッカー協会の技術委員会では、なぜかフットサル担当として会議に出なさいと言われ、「喜んで」と言ってフットサルの話をしています。フットサル委員会もあるのですが、そちらの方から技術委員会に出席することを続け、だいたいもう7年ぐらいになってきました。技術委員会では「フットサルの大会はこんな感じでやってます」という報告ぐらいにとどまってるんですが、私もサッカーのトレセンにずっと関わっていたので、そちらの側からの意見というか、フットサルでこのように使ったらいいんじゃないかということ時々発言しながら会議に参加し、いまも進行中です。

富山県サッカー協会の中にはフットサル委員会もあるのですが、実働しているのは富山県フットサル連盟の方です。社会人リーグを運営するのがフットサル連盟のスタートでした。ただその中で、U-18の選抜大会があるということもあり、「高校の先生でフットサルやっている人」イコール私が理事になって、U-18を担当する形となり、連盟にも関わるようになりました。別の組織ですけど、やっている人は皆同じで、実働している感じです。2024年度からNPOサロン2002の理事にもなり、「はい、イエス、喜んで」とさせていただいています。

この写真は、フットサルの社会人チームで引退試合になった全日本選手権での写真です。登録選手14人のうち半分ぐらいが日本代表だった名古屋オーシャンズと試合をした時の写真です。これをやっている時にフットサルの審判もやっていて、2級を取ったときに県からインストラクターもすぐに取りなさいと言われ、何かよくわからないうちに取ったのがフットサル3級審判インストラクターの資格です。これがU-18フットサルを富山県でやっていく上で大いに生きてきているところ。後ほどお話しします。


自己紹介

NPO 富山県フットサル連盟

富山県高等学校体育連盟
サッカー専門部副委員長 (リーグ戦担当)
兼フットサル委員 (委員長は引き継ぎ)
(副理事長 兼 研究部委員長)

富山県サッカー協会 技術委員会 フットサル担当
富山県フットサル連盟 理事 強化普及部 (U-18担当)
NPOサロン2002 理事 (2024~現在)

◆資格◆
中・高教諭専修免許 (保健体育)
JFA Aジェネラルライセンスコーチ
GKレベル3ライセンスコーチ
サッカー・フットサル2級審判
フットサル3級審判インストラクター
→これがフットサル実施におおいに活かしている。



◆富山県の高校サッカーとU-18フットサル

これは中塚先生が出されたスケジュールをみて、富山ではどうなってるんだろうと思って整理して作ったものです。

まずは上の方から。県サッカー協会技術委員会の中で年間のグラウンド調整、他種別との調整もあります。2種はこのグラウンドをこの時間使っていいよというのを1月、2月のあたりで決定し、そこから節を決めてリーグ戦を入れていく形です。1部、2部リーグは選手が多いチームが多いので、4月のアタマから始め

ユース年代年間スケジュール（富山県の場合）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ToyFA技術委員会	クラウンド調整	年間の各種別のクラウンド利用が取りまとめられる。										
U-18サッカーリーグ 1部・2部		審判講習会		1~7節	に よ り 中 断	8節	9,10節		11~14節			
U-18サッカーリーグ 3部				1~4節		5節	6,7節		8~10節			
高校総体					県	北信越		全国				
高校サッカー選手権	全国									県		全国
その他フェスティバル等	遠征等		フェスティバル		遠征等	II 同日開催		フェスティバル	「暑熱対策」とは言いつつも、多くのフェスティバルが…。			遠征等
新人大会											県	
国民スポーツ大会 (U-16)										北信越		
全日本U-18フットサル選手権		県	冬場なので、サッカーは行われていないが、フットサルに否定的なチームも…。			北信越		全国			全国	
U-18フットサルリーグ	FLCC @千曲									審判講習会		1~5節

ます。他県では3月からリーグ戦を始めるところも増えているようですが、富山では4月のアタマからです。富山県は3部制でやっていますが、3部のチームは1年生が入学してこないチームが成り立たないところがありますので、早くても4月中旬以降、4月下旬からスタートします。高校総体予選期間は中断します。暑熱対策もしながらこんな感じで進んでいきます。

北信越では高校総体の各県優勝・準優勝チームが北信越高等学校総合体育大会に出ます。大会の時期は関東と一緒にだと思いますが、関東とは様子が違います。ここは高校総体の富山県予選で出場チームが決まります。優勝をしてもインターハイにつながるわけではないんですが、ここに設定されています。女子はこの優勝チームが高校総体に出場します。

どんどんみていくと、同じように高校サッカー選手権があります。東京みたいに8月から始まるわけではなく、9月の終わりから10月ごろに始まるようなスケジュールです。

これだけでも大変なのに、各チームはその公式戦の合間に遠征やフェスティバルにどんどん参加し、基本的にオフシーズンはありません。当然、この時期に何をやるかというようなピリオダイゼーションはやっていないと思います。選手たちはなかなか大変な状態だなどと思います。指導者側も休みがなく、ヒーヒー言っています。

ここにさらにフットサルも混ぜていくという感じで

す。富山県では全国大会の前に北信越大会を実施します。北信越サッカー協会フットサル委員会で、サッカーの北信越高校総体と同日開催するというのが決められています。するとサッカーのチームは出られない、のではなく、どうやってここに出すか、選手をどちらに出すかというような調整をしています。全日本U-18選手権でも上位に入る帝京長岡高校や、石川県の遊学館高校は、そのあたりを調整して、サッカーにもフットサルにもチームを出しています。でもやはり、帝京長岡さんあたりはサッカーの方を優先するので、フットサルではなかなか勝ち上がれなくなっているのが現状だと思っています。

サッカーシーズン中にJFAフットサルの県大会をやるとうしてもできないので、もっと遡って2月のところで、次年度の県大会を済ませることをしています。この大会を実施するためには、その前にフットサルを知っている子がいないといけません。先ほどもお伝えしたように、我々はサッカーとフットサルを分化していないので、サッカーの子たちがフットサルの全国大会予選をする前にリーグ戦をやっておいて、慣れた子たちにJFAフットサルの予選に出てもらおうということでスケジュールを何とか組んでいます。

フットサルのリーグ戦を進めるには、審判の資格保有者を増やさないとできません。そこで10月あたりでユース向けの審判講習会を私の方で行い、大会やリーグ戦を進めているところです。

◆問題点

問題点を挙げてみると、いま示した通り、カレンダーが過密化していることが挙げられます。サッカーのカップ戦とリーグ戦。暑熱対策の影響でカップ戦の日程が埋まってしまう中、フットサルをどこに入れようかという感じです。

それから少子化の影響です。東京都ではあまり感じられないかもしれませんが、富山県では昨年、人口が100万人を切りました。2024年に富山県で生まれた子どもの数は5,078人で、現状の県立高校と私立高校の来年度の定員総数は7,926人なので、去年生まれた子たちが15歳になる頃には3,000人ぐらい高校生が減るということです。サッカーとフットサルのどちらかに特化するほどフットボールプレイヤーはおらず、部活動地域展開という流れもあり、中学生が気軽にフットボールに取り組めない子が出てきているんじゃないかという現状があります。

フットサルをする場所の不足もあります。フットサルが利用可能な公共体育館は、町の中心部にはなく、築年数の古い山間部の体育館を使わせてもらっています。いま全国で熊がよく出てきています。昨日から富山県U-18フットサルリーグが始まりましたが、体育館の横に柿の木があり、熊の爪跡がついています。屋内でやる競技ですが、クマさんに気をつけながらフットサルをやっています。

他のスポーツ、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどとも共存していかないといけません。取り合いになっています。指導者不足もあります。フットサルC級ライセンスを持っている方も少なく、フットサルを深く知って指導できる方が不足しています。かくいう私もフットサルの指導者ライセンスは持っていません。サッカーしか持っていないので、今後取りに行きたいと思いますが、学校現場では、若手はサッカー部の顧問でも未経験者が多く、働き方改革という中で、部活動に時間を費やすことへの考え方も変わってきている気がします。

問題点

カレンダーの過密化

年間を通じたサッカーのリーグ戦の開催とカップ戦（高校総体、高校サッカー選手権、新人大会）の中で、暑熱対策の影響もあり日程が埋まっている状態。



少子化の影響、中学校部活動の地域展開

- ・人口が**100万人を切り**、2024年の富山県で生まれた子どもの数は**5,078人**。
県立高校と私立高校の定員の総数はR8で計**7,926人**。
学校再編の流れに待ったなしがかかっている。
- ・サッカーとフットサルの**どちらかに特化するほどフットボールプレイヤーが多く存在していない**。
- ・部活動地域展開の影響で、**気軽にフットボールに取り組めない子も出てきている？**



問題点

フットサルを「する」場所の不足

フットサルを利用可とする公共体育館は市中心部ではなく、**築年数の比較的古い山間部の体育館**を主戦場としている。高校の体育館を利用するにも、他の室内競技との取り合いに・・・。



指導者の不足（力量・数）

フットサルCライセンス保持者は富山県内で**10名程度**。フットサルBライセンス以上は**0名**。
→フットサルを深く知り、指導できる指導者の不足。
サッカー部顧問は、**若手の未経験者も多く、働き方改革の波**の中、なかなかライセンスを取得を促すこともできない・・・。



◆フットサルとサッカーの融合

皆さんご承知の通り、富山は雪の多い地域です。たとえ雪が降っていても、ボールを蹴るトレーニングが体育館でできるというのがメリットだと思います。また、ユースレフェリーの育成は、サッカーにもつながるメリットがあると思います。

デメリットは、冬場の走りこみや、遠くまでボールを蹴ることが不足する可能性があります。あまり根拠はありませんが、そんなことを思います。

フットサルの可能性としては、よく言われるようにメッシ選手やネイマール選手のようにずば抜けた選手が生まれてくる環境が、富山・北信越地域からできたらいいなということを考えています。認知、判断、実行、スピード、正確性…。図抜けた選手をここから生み出したい。関東と同じようにやっているとはそういう選手は生まれないと思っているので、北信越地域ではこういう選手を、フットサルをやりながら育てていきたい。いま私は技術委員会に入っているという話をしましたが、今年度からU-13とU-14の県トレセンのトレーニングに、JFAからフットサルの指導者をお招きし、県代表の選手たちにフットサルのメソッドを注

フットサルとサッカーの融合

富山だからこそ

メリット
気象条件の悪い冬場に、しっかりとボールを蹴るトレーニングができる。
ユースレフェリーの育成

デメリット
サッカーピッチの広さで走り回る、**感覚、持久力等が鍛える可能性がある。(根拠なし)**

フットサルの可能性

①南米の有名選手（メッシ、ネイマールetc.）のようなサッカー能力のずば抜けた選手の育成の可能性

②**原田・利根・実行のメビード・正樹**等のずば抜けた選手の育成の可能性



入していくことをしていきます。これは長い間言い続けてきたことで、ようやくいまの富山県ユースダイレクターが本腰を入れて今年からやってくれるようになりました。富山県だからこそというところで、今後やっていきたいと思っています。

名的高校生選手をフットサルレフェリーにしました。さらにリーグの中で、インストラクターが実地指導をし、F3、F2という感じでステップアップしてもらい、いずれはサッカーでも笛を吹くというところにつながればいいと考えています。現時点で、ここからスタートした子が5名、F3、F2に上がってきています。このように富山のフットサルを盛り上げていければなと思っています。

◆ユースレフェリーの育成

長くなりましたが、最後にユースレフェリーの育成の話を。原則として参加チームの選手がレフェリーを行うということを富山県U-18リーグで進めています。先生たちの負担を減らしたいし、フットボール文化、フットサル文化を富山で根付かせたいという思いです。中塚先生や本多さんの話を聞きながら、そういう思いを富山で実現したいな思い、やっています。

(写真を見ながら) こういう感じでやっています。高校生がフットサルの試合の審判をしている中に、県のフットサル審判部長さんに来ていただき、熱心に指導していただくことを続けています。リーグ戦の開幕前にフットサル4級審判の資格講習会を実施し、各チーム2名以上参加を義務付けています。今年度は約60

本日、シンポジウムが始まる前に、初開催のFIFAフットサル女子ワールドカップの日本vsニュージーランドの試合をこの会場で観戦しました。右側の写真の2人が日本代表選手として出場し、ニュージーラン



ドに6-0の勝利に貢献してくれました。右側の5番が追野沙羅選手、今日は7番をつけていましたが2得点です。それから第2ピリオドから出場したGKの須藤優理亜選手。いずれも富山県の出身です。女子フットサルも盛り上げていきたいなと考えています。

また左上は富山高等支援学校の子たちです。先日の高等支援学校のフットサル大会で、全国3位となりました。

ユースレフェリーの育成

- ・レフェリーを原則として参加チームの「選手」が行うことを競技会規定に。
- ・リーグ戦実施前に、F4級審判資格講習会を実施し、各チーム2名以上の参加を義務づけ。
- ・レフェリーにはフットサルレフェリーインストラクターから実地指導。
- ・このシステムから、F3級→F2級へとステップアップ、サッカーレフェリーでの笛を吹くことの自信につながっている！



フットボール文化の醸成、フットボールファミリーの育成

そういう子たちもフットサルファミリーです。左下は、現フットサル日本代表の内山コーチに来ていただき、ゴールキーパー講習会というか、フットサルGKトルセンをしたところです。いろいろやりながら東京に追いつき追いつきたいと思って頑張っているところです。

長くなりましたが、富山ではこんな感じで頑張っております。

中塚：橘さんありがとうございました。富山でサッカー、フットサルをフル回転でやってくださっている様子がよくわかりました。その中で次の世代の人たちが、プレーヤーとしても審判としても育っているのが素晴らしいなと思います。

大友さんが入室されていますが、話の流れでこのまま東京都の事例を石井さんにさせていただきたいと思います。その後で大友さんにお話しいただき、最後に本多さんという流れで進めます。

では石井さん、お願いします。

2. 東京都のユース (U-15、U-18、女子) フットサルはいま (石井智)

東京都小平市にあります錦城高等学校でフットサル部の顧問をしている石井と申します。本来でしたらU-18、U-15リーグの代表を務めておられる原陽司さんにお話しいただくのがふさわしいのですが、原さんがどうしても参加できない事情があり、急遽代役としてこちらに伺った次第でございます。

皆様と違って私は、学生時代にフットボールをやったことがございません。少年の頃から文化系でずっと来ました。教員になりまして、今から20年くらい前の話ですが、当時の若手は絶対に運動部の顧問をやらなくては行けなくて、「あなた空手をやりなさい」と言われ、8年ほど空手道部の顧問をやりました。子どもたちと一緒に稽古をやり、8年経って空手の経験者が学校に来たら、「君はフットサルをやりなさい」と言われ、30代が終わるところからフットサル部の顧問になります。見たことも聞いたこともないスポーツでしたので、本を読みながら勉強を始めました。いろんな方にご縁をいただき、教を乞う機会がございました。なんの因果か、TFAフットサル委員会のユース部でもお手伝いをさせていただくようになりました。

◆東京都におけるユースフットサルの現状と課題—スケジュール問題を中心に

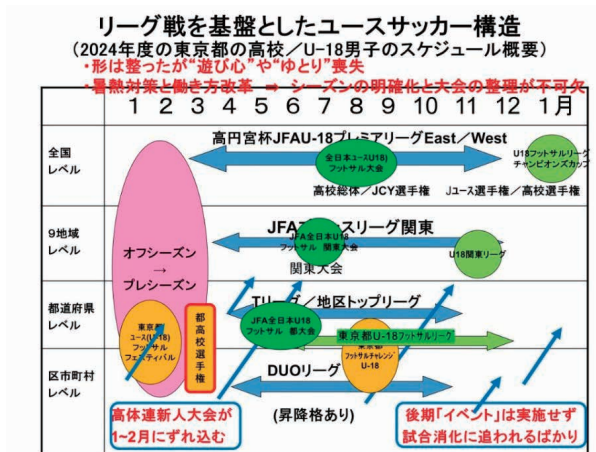
東京都ではいま、男子がU-15リーグとU-18リーグを、それぞれ1部、2部の2部制でやっています。U-18リーグから申しますと、1部が7チーム、2部

も7チーム、計14チームです。U-15の方は1部が7チーム、2部が9チームの計16チームで運営しています。実はチーム数はここ数年で減ってきました。特にU-15リーグで参加チームが減少していることが、いま抱えている課題です。

一方、女子ユースリーグも3年前からスタートしました。こちらはどちらかというと十文字中学・高校のように、フットボールで名を上げるんだという女の子と、高校に入って初めてボールを蹴りましたという女の子が戦う、ある意味壮絶なリーグ戦ですけれども、こちらの方でも最初8チームからスタートし、3年目の今年では全部で11チーム。フットボールをしたいという女子選手の需要はあるんだろうなと感じています。チーム間の実力差はありますが、和気あいあいとリーグ戦が行われています。来年度からは1部・2部制に移行する案が進んでいます。

先ほどの中塚先生のスライドを用いて年間スケジュールをみていきたいと思います。

ユースリーグは5月にスタートし、年明けのリーグチャンピオンズカップに間に合うように日程が組まれているため、12月までリーグ戦が続きます。U-18は同じチームと2回対戦します。U-15は一巡して上位リーグと下位リーグに分かれて戦う形が現在のフォーマットになっています。U-15も本来でしたら二巡したいところですが、図を見ておわかりのとおり、またここまで登壇された方がおっしゃられたように、サッカーとの日程の兼ね合いがどうにもならないところがあります。U-18については、リーグ戦には例え



ばフウガドールすみだファルコンズやパスカドーラ町田などのフットサルの専門チームと高校のフットサル部が属しています。すなわち完全にサッカーとは分化しています。サッカーもフットサルもやっているチー

ムはほぼないと思ってください。ただ、U-15、中学生年代に関しては、サッカーもフットサルもやっている。どちらかというサッカーのためにフットサルをやっているチームと、例えばFリーグの下部組織でフットサルだけやっているチームが混在しており、やはりどうしても日程が組めません。U-18の方は何とか消化できますが、U-15はどうにもならないというような現状があります。

リーグ戦に加えてTFAフットサル委員会ユース部会、私たちの方でも大会を開催しています。1～2月の東京都ユースフェスティバル、夏の東京都フットサルチャレンジです。こういったところでなるべく裾野を広げ、短期間のカップ戦に出てもらい、その先にリーグに参加はいかがですか？とお声がけをしています。しかし大会に参加するハードルが高い。その理由は、まず日程が被るとというのが一番です。そして、例えば夏のチャレンジを今年も8月にやらせていただきましたけど、ここに普段は高校でサッカーをやっているチームに対して「フットサルどうですか、いい機会ですから体育館でやってみましょう」と声をかけました。結構集まってくださるんです。ここで初めてフットサルを経験するチームが12チームあったと仮定しますと、日程と会場の都合で、どうしても普段フットサルをやっている子たちが出られなくなるんです。人数が多めのチームでは、普段のリーグ戦ではなかなか出場機会に恵まれないけど、短期間のカップ戦ならチャンスがあるという生徒も一定数いるのですが、そういう子の出場機会を奪われてしまうという、本末転倒というのが今年感じた課題でした。

とにかくサッカーとフットサルのリーグ戦をどううまくスケジュールするかは大きな課題です。また、リーグ戦はちょっと難しいけどカップ戦だけでも出してみよう。例えば1月の都ユースフェスティバルには、これまでも駒沢高校や國學院久我山高校、U-15までしか常設チームを持たない町田JFCもこの大会のためにU-18チームを編成して参加してくださっていますが、これももし高体連の新人戦が伸びてしまうと、普通のサッカーチーム、高校の部活動のサッカーチームはますます難しくなってくるのかなと思うところがあります。

◆会場確保と会費負担の問題

とにかくにもまず解決しなくてはならないのは会場確保ですね、会場がどうしても取れません。東京では民間施設をお借りして試合を行います、1時間で1万数千円かかります。するとどうなるかというと、例えば7チームリーグだと、試合数とかかるお金を算出して、頭割りするわけです。12～13万円プラス審判代がかかります。これまでU-15、U-18リーグを別々の組織でやっていた時代がありました。2年前に統合というか、一つにまとまってみんなでやるようになりましたが、それまでは、例えばU-18はお金がない場所もないからランニングタイムでやりましょう。U-15はプレーイングタイムでやりませけどその代わり参加費は高いですよ、となっていました。連盟の傘下になり、U-18とU-15が一緒になったときに、フットサルなのだからプレーイングタイムでやりましょう、審判もTFA審判部から派遣してもらいましょうとなりました。競技レベル、試合の質自体は上がっていますが、その分参加費が増えてしまった。14～15万円かかってしまい、加えて個人登録料やチーム加盟費がかかりますから、先ほどの話と同様、お金がかかりすぎるところがあるかなと思います。それが新規参入のハードルになっています。

リーグ戦でも大会でも2チーム出したいという気持ちはありますが、顧問が一人しかいないので男子も女子も参加は無理だとか、あるいは2チーム出したらカレンダーで空いていた日が全部埋まっちゃうとか。ここにいらっしゃる方は多分「しょうがないよね」って思われる方が多いと思いますけど、例えば教員になりたての若い顧問の先生に「そういうもんだから」っていうのはもう通用しない時代になってきました。

それと子どもたちも、いろいろやらなくちゃいけないことが増えてきました。中学生も高校生もそうです。例えば大学入試に必要なので、英語の外部試験を受けに行かないといけません。日曜日に試験があります、土曜日の放課後に試験があります、というケースが増えてきていると思います。

クラブチームの選手で言うと、土曜日に試合があった場合、通っている学校では公欠が取りづらい。理由のある欠席となってしまう、なかなか大会に参加しづらいということも聞いています。

もちろんユース部会の方で「お願いします」というのは出してはいますけど、OKしてくださる学校とそう

でない学校があるということです。

話が飛び飛びで申し訳ありません。加えて2月に、東京都フットサル連盟主催の大会も3年前から始まりました。男子の高校選手権と女子ユース選手権です。女子の方は、普段のリーグ戦が学校チーム主体になりますので、クラブチームと一緒にの大会。男子の高校選手権は、高校部活動チームだけの大会です。例えば錦城高校もそうですが、フウガさんや町田さんなど、トップレベルのチームと戦っていつも負けてばかりいるので、高校だけでチャンピオンを決めましょうという大会です。大会を作ってくださいのはありがたいんですが、もうどこに何が入って誰がやっているのという状態になってしまっています。大会が増えるのは嬉しいのですが、U-15リーグの選手を見てみると、この子たちはいつ休んでるのかなと？と心配になってしまいます。男子も女子もです。交通整理は必要だなと考えています。

東京都の問題としましては、どのように日程を消化していくか、その上でサッカーとどう兼ね合いをつけていくかということが挙げられます。そして、少ない会場、それに付随してかかってしまう負担、費用をどうしていくかということが問題になっているかと思います。

ただ、やはり需要はあると思います。今年8月の都チャレンジU-18に参加してくれたサッカーチームの子たちもすごくいい顔をして、初めて体育館でやりましたという子もいました。とても楽しそうに帰っていったので、サッカーとフットサルが対立するのではなく、両立というか共存ができていったらいいというのが、東京都の一員として思っている次第です。

中塚：どうもありがとうございました。東京都のU-18フットサルは、TFAフットサル委員会ユース部会がリードしてきました。フットサルの組織としては東京都フットサル連盟がありましたが、連盟はどちらかというと大人のカテゴリーにのみ注力していたのですが、ユースリーグを傘下に収めたあたりからユース年代にも力を注いでくれるようになりました。東京都ユースフットサルリーグは、最初はDUOリーグ同様、自主運営、手弁当でやっており、参加費も無理のない範囲に設定されていたのですが、2016年度から連盟傘下となり、加盟費、登録料、公式の派遣審判にかかる費用などがかるようになり、参加費が随分上がった経緯があります。

石井：いいことではあるんですけど、審判の資格が、それまでは4級だけ持っていればよかったのですが、学校ないしはクラブ単位で3級審判員が絶対必要となりました。取ればいいじゃんって話なんですけど、それができるところと、それをハードルに感じてしまうところがあります。そんなに大変だったら出るのやめようというところが増えてるのも実情ですね。

中塚：という東京の悩みの姿です。どうもありがとうございます。

大友さん、お待たせしました。ここまで話を聞いてもらっていましたが、大友さんが用意して下さった、U-18のフットサルがいまどの方向に向かおうとしているのかについてお話しください。

IV. ユースフットサルのゲーム環境を考える（大友洋介）

皆さんこんにちは。神奈川県武相高校のフットサル部の大友です。どうぞよろしくお祈いします。

今日は関東連盟、また日本連盟のU-18ワーキンググループのリーダーとして話をせよと声をかけていただきました。私は武相高校の教員ですが、本日は湘南工科大学附属高校で、つい先ほどまで自チームのリーグ戦の試合があり、ちょうど終わったところになります。昨日、関東U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの開幕でした。関東だけでなく神奈川も今がフットサルシーズンとなりますので、今日が神奈川県

U-18フットサルリーグ、明日は関東U-18チャンピオンズリーグ神奈川開催、17時までが関東U-18リーグ、17時から21時が神奈川県U-18リーグといったスケジュールでやらせてもらっています。

湘南工科大学附属高校では学校が試合会場を提供している点がリーグ運営にとって非常に大きいです。年に1回はお祈いしたいと伝えてあります。例えば8チームが参加するリーグで、8チームが1日程ずつ会場を提供すれば、実はそれでリーグ戦の会場確保は成立するのでですね。バスケットとかサッカー部もそうですし、

グラウンドを持っている学校だったら会場確保に苦労はしないのです。ただフットサルは、会場確保の面では大いに苦労する競技で、これが18年続いた今も神奈川の延べ18チームでやっている中で、会場提供が実現できているのが1チームだけというのが現状です。

トサル部顧問という、フットサル専門チームとしての視点でカレンダーを見ているという点が、ちょうどサッカーを主に活動する橘先生とは対極のカレンダーの見方をしているかと思います。

◆日本フットサル連盟 U-18 ワーキンググループにて

スライドを出してもらったので、「フットサル U-18、U-15 年代のゲーム環境を整える」ということで話をさせていただきます。

2023年11月より日本フットサル連盟 (JFF) の U-18 ワーキンググループリーダーに就任しました。プロジェクトとしては2021年からやっています。本来でしたら今年度、2025年度が改革元年となったはずでしたが、4年もやって足踏み状態です。

◆ U-18 年代について

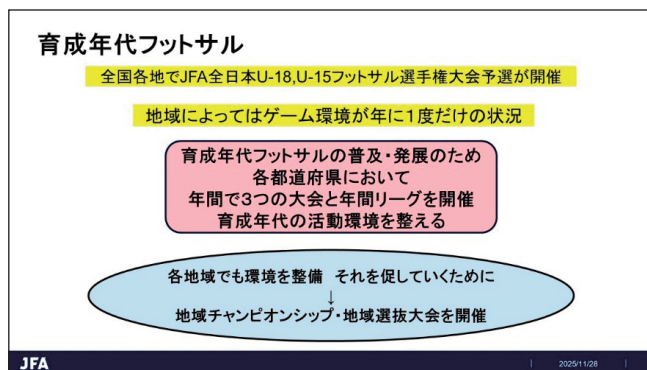
ーカレンダーの見直し

ここに書いたとおり、例えば全日本 U-18 フットサル選手権に出場するだけだと、フットサル専門チームにとっては、都道府県によっては年に一回のこの大会しかないということになります。育成年代において、年に一度だけでフットサルの専門チームの活動環境が成り立つはずがありません。Fリーグに U-18 チームを持つことを義務づけても、試合する相手がないのです。相手は大人になります。結果、U-18 ゲーム環境を整えない限りは、大人のリーグに参加するしかない。強化という点では大人のリーグに参加するのは問題ないのですが、フットサルを本気で普及発展させようというのであれば、年に3回は U-18 年代だけの大会がないと、フットサル専門チームのカレンダーは埋まらないのです。

サッカーチームがどこに隙間を見つけるかに一生懸命な一方で、フットサル専門チームはどうやってカレンダーを埋めていくかがポイントになっています。その中で、目標を定めてリーグ戦をするなら、長野の U-18 リーグチャンピオンズカップのような大会が必要です。

また、どんなチームにもタレントはいます。自チームで活躍するだけでなく、将来の日本を背負うような選手は、サッカーも含め、どこに埋もれているかわかりません。日本代表を目指すタレント発掘という観点とフットサルの普及発展の観点から、地域選抜大会も不可欠だと考えています。

具体的には、関東は関東でチャンピオンズリーグをやり、かつ選抜大会をやる。その先に全国大会を作りたいということになります。



JFF に声をかけてもらったとき、U-18 の選抜大会を復活させたいというのが私なりの結論で、ここまでやって参りました。JFF の都合で理事が大幅に入れ替えになったりして足踏みはしていますが、日本中のフットサルに関わる人の共通認識は、アンダー世代を育てなければこの競技の未来はないということです。

育成年代の現状課題をまず挙げさせてもらいました。先ほどの橘先生のお話と石井先生のお話を非常に興味深く聞かせていただきました。私は武相高校フツ

< 育成年代の現状課題一年に一度だけの大会 (現状緑色だけのケースがある) >



サッカーをやっていないチームにとって年に一度だけ、全日本選手権の県大会、地域大会、全国大会で終わりです。上図緑色で示したところですよ。それも関東や全国というのは、勝ち抜いたチームしか出られませんが。ほとんどのチームは、1年で1ヶ月それも2、3日しかカレンダーが埋まらないので、どこでカレンダーを埋めていくかが課題です。フットサルとしても、6月から1月までリーグ戦ができる期間となりますが、サッカーのU-18リーグと丸かぶりのスケジュールです。東京都でも石井先生が同じことを指摘されていました。東京と神奈川はカレンダー的には全く一緒です。東京都モデルを参考に私がスタートしたので当然ですが。ただ、フットサルの視点でカレンダーを見ていくと、いま一番チャンスと思えるのは7~8月です。フェスティバルがあるという話が富山県で出てきましたが、率直に言って、夏に開催されるフェスティバルに出場したチームにはペナルティを課すべきではないかと考えます。JFA主催でなければやってもいいのよ、それとも7~8月は活動自体しない方がいいとなるのよ。これはJFA云々ではなく、熱中症でもし何かあった時には100%事業者、我々が言うと学校の責任で罰則の対象になるというように今年度からルールが変わっています。そう考えると、屋内で行うフットサルで7~8月にカップ戦をするというのはチャンスが大きいのではないかと考えます。

もう一つ、いまオレンジで示している10~11月で関東U-18リーグとあります。いまは11~12月と、当初より1か月後ろにずれています。長野の大会に代表チームを出す上では苦勞しますが、サッカーチームの出場を促すには、11月の高校サッカー選手権予選が終わった直後にリーグ戦も終わるので、地域ごとのフットサルのチャンピオンズリーグをやるには11~12月がチャンスです。黄色で示した二つの全国大会は、まさにサッカーのオフシーズンのところですよ。

そして3月はオフシーズンではないのですが、全国U-18選抜。サッカーのリーグ戦は近年、3月が開幕月になっているようですよ。ただ、3月に全国選抜大会を持ってくることで、オフシーズンに予選を持ってこられます。オレンジで示した関東選抜大会。この大会が2月にあれば、選抜チームの準備は11月末から12月、1月になり、ここがトレセン活動の期間となります。地域によっては、橋先生がおっしゃるように指導者不足のケースもありますが、選抜チーム

として、例えば県内でサッカーやっている選手でも、フットサルに興味がある選手がいたら出してもらおう。選抜チームに関わることで、選手を通してフットサルを広めることも可能です。また選抜活動は、地域や県の中でフットサルを教えられる指導者に担ってもらえることができます。

カレンダーについては、サッカー主軸だとフットサルチームはどうしていいのよかというところがあります。スケジュールが埋まらず、スカスカのスケジュールに、サッカーに寄せていくしかないのよ。それとは逆に、フットサルのスケジュールを中心にすれば、サッカーチームはフットサルチームのスケジュールに合わせて出るしかないのよ。この交じり合わない部分をどうすればいいのよ。進行方向は違っても到達点を揃える。これが全国大会の役割だと思います。

なので、私はJFFで2つの全国大会を。まずは3月のU-18選抜大会を何としても復活させたいと話しています。最短だと2026年度ですから来年度。来月のJFF理事会等でどうなっていくかですよ。先ほどは「足踏みしている」と言いましたが、新東名高速道路の開通(2027年度)よりも前に実施できることを目指しております。

悠長なことは言われていません。2017年度の和歌山でやった選抜大会が、JFF主催での最後となります。その時18歳だった子たちはいま26歳ですよ。冷静に考えればゾッとするような出来事ですよ、10年足踏みしています。いまは25~28歳の子たちが日本代表で半分ぐらい、ユース選抜大会の出身者ですよ。選抜大会を経験してフットサルの面白さを感じた子たちが代表の中核を担っています。これから5年先、10年先は、選抜の全国大会がなかった世代が中心となり、どれだけ代表を背負ってくれるのよ。もしくはFクラブのユース出身選手だけの日本代表になってしまうのよ。ちょうど熊本の鶴田先生もいま参加されていますが、本石選手のような選手が発掘されるチャンスがなくなっていくのではないのよ。そうならないことを目指して、一刻も早く選抜大会を実現したいと考えて動いております。

あとはお金の問題ですよ。数百万単位の予算がクリアできるのよ。北海道の荒川さんもよくご存知だと思いますが、選手の旅費を補助してくれなくていいですよという9地域の同意を得ただけでも、200万程の予算を減らすことができます。全国大会の目標金額400万が250万まで下がっています。最初は1,000万とい

う数字だったのですが、いかにお金をかけずに運営するか。そしてスポンサーがついて、その後だんだん金銭負担が減っていく形でもいい。若い世代のチャンスをつぶさないでほしいというのがワーキンググループメンバーの共通認識でした。

地域チャンピオンズリーグについてですが、関東でちょうど昨日開幕したところですよ。都道府県によっては強いチームが1～2チームだけで、その2チームにしてみれば、8チームでリーグ戦をやっても、2試合はいい試合になるけど残りの5試合は10対0で勝ち続けて終わってしまう、これが健全と言えるのか。神奈川の阿久津貴志さんはよくこの言葉を用いられますが、彼が言いたいのは、リーグ戦というのは僅差で競い合っただけじゃないかと。僅差で競い合い、切磋琢磨できる環境を作ろうということです。一方で各県から必ずチームを出してほしいという普及面からの要望とは矛盾する部分もありますが、関東U-18リーグは今年で4年目が実施されています。

◆ U-15年代について

ー各地域での選抜大会とカップ戦を

U-15では8月に選抜大会を持っていきたいと考えています。ただこれも一つ心配なことがあります。それは、全日本U-15フットサル選手権大会都道府県予選が多くの方で7～8月にずれ込んできています。暑熱下で夏にサッカーができないのなら、JFAの冠がついたU-15選手権大会の予選は7～8月にやろうというのは賢明な判断だと思います。神奈川でも今年は8月にずらして、以前は9～10月にやっていたのを前倒しました。それでもこれまでのカレンダーを参考にして、8月のお盆明け、もしくはお盆期間中に選抜大会ができるかと判断して開催しています。夏休み期間は学校がないおかげで、選抜の練習は平日の夕方など、普段クラブ活動をやっている時間に実施できます。もしくは平日の午前中です。学校の先生もクラブチームの指導者も、夏休みは平日午前中に動きやすいので、短期集中でフットサルトレーニングを実施しやすいこ

ともあり、夏の選抜大会を継続していこうと考えています。

U-15の全国大会についてはまだどうするか決めていませんが、年度末に地域チャンピオンシップをやりたいと考えています。リーグ戦のチャンピオンに絞らず、何でもいから予選をやってくればチャンピオンシップに出場可能です。短期間のカップ戦でもかまいません。1～2月にU-15のカップ戦をやりませんか。3月は関東などの地域ごとにシンプルに大会を実施したい。

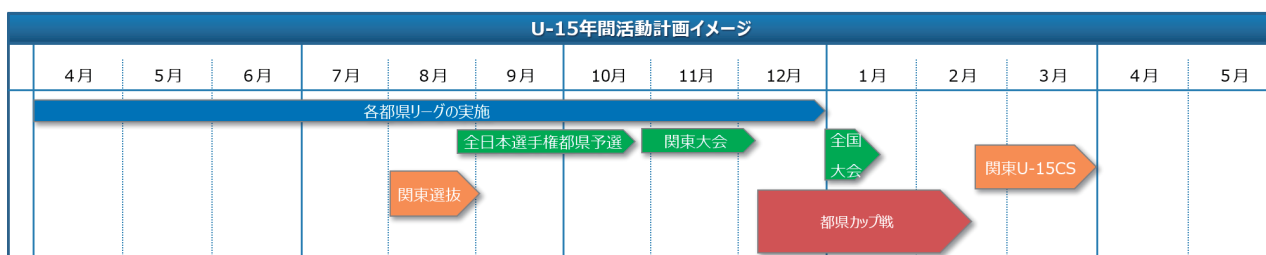
例えば北信越U-15フットサル大会や関東U-15フットサル大会、それに地域協会と連盟の主催大会ができると、普及育成の意味合いが強くなるのではと感じております。実際、サッカーの方をなぞってみれば、関東で終わる大会って何のためにあると言われることがあります。それはサッカーが普及の段階を過ぎているからであり、おそらくいま、フットサルにとってはちょうど必要な立ち位置にあるのだと感じております。

◆ U-12年代について

ーフットサルを知ってもらうために

U-12は逆に、カレンダーの隙間さえ見つけたらやっていくといいのではないのでしょうか。いま神奈川では、8月に東京や静岡とU-12、U-15の2カテゴリーで交流大会を開催しており、2月にもう一回やろうと話を進めています。ちょうどサッカーがオフシーズンになってきたところですよ。暑熱環境とか寒冷環境というのもあって年2回、やりやすい時期にやりましょう。

U-12にはフットサルを知ってもらいたいということが全てですね。もともとフットサル場でサッカーをしているチームはたくさんあります。特に東京や神奈川のチームはほとんどサッカー場でなく、フットサル場でサッカーのトレーニングをしています。せっかくなのでフットサルを知ってもらおうということで、スケジュールさえ合えば積極的に参加してくれるチームが多いです。U-12の事業ではトレセンを含めた交流





大会を積極的に開催し、フットサルの認知度を高めていきたいと考えます。

現在、私が取り組んでいるプロジェクトとしては以上です。ありがとうございました。

中塚：日本全国にさまざまな地域事情がある中で、全体のスケジュールをどうしていくかを考える大変なミッションに取り組んでおられる大友さんでした。

選抜大会を何とか復活させようという思いは、ひしひしと伝わってまいりました。それをどこに置かれますね。ありがとうございます。

では本多さんから、全国各地の様子、第10回大会に向けてのところをご紹介いただき、最後は全体で意見交換、ディスカッションしたいと思います。

V. U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの10年 (本多克己)

ご紹介いただきました本多です。ホンダカップというフットサル大会をやったり、兵庫県のサッカー協会、フットサル連盟の理事をやったりしておりますが、今日はNPO サロン 2002 の副理事長としてお話をさせていただきます。

今日のひとつのテーマでもあります U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ。これが本年度で第10回。節目を迎える大会になります。もともと大友さんから、U-18 の大会を作ってよとけしかけられたり、あとはサロン 2002 のメンバー、中塚さんとかと、フットサルを日常的にプレーできる環境を作っているということで大会を作ってまいりました。私どもとしては大会を作る、企画する、提供するという立場で、そこに大会に参加し、一緒に大会を作っていただくということを10年間やってきたわけです。ご協力くださった、参加してくださった皆さんに改めて感謝申し上げたいと思います。

◆過去9回のあゆみ

各大会の優勝校はさきほどご覧いただいたので、ここではリーグランキングという形でまとめたものをお見せします。優勝5点、準優勝3点みたいな形でまとめたものです。

第1位は東京が断然トップで、これに神奈川、静岡等が続いてくるという形です。

第1回大会は8チームでスタートしました。東京、神奈川などのほか、富山も第1回から出場しています。静岡で開催し、静岡のHEROが優勝しました。

第2回大会は名古屋のオーシャンアリーナで開催し、愛知県のサントスという、日系ブラジル人を含むチームが優勝しました。

第3回から長野県千曲市に会場を移して開催しています。第3回の優勝は京都橘高校、サッカーの強豪校です。サッカー部からフットサルをプレイする選手が出て優勝を勝ち取りました。

第4回大会から第7回は16チームのノックアウト方式で行われ、第8回大会からはグループリーグと準決勝・決勝という形で3日間の大会となりました。運営の方の負担は大きくなりましたけど、長野FFのご協力で行ってきております。

参加リーグランキング

優勝：5、準優勝：3、ベスト4：2、ベスト8：1で算出

順位	リーグ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	合計	順位
1	東京	2	4	3	2	8	7	8	7	7	48	1
2	神奈川	3	0	2	3	3	2	4	4	2	23	2
3	静岡	5	2	1	0	2	2	1	1	2	16	3
4	愛知		7	1	0		3	0	0	1	12	4
4	大阪	1	0	2	5	1	1	1	1		12	4
6	京都		1	5	1	0	0	1	0	0	8	6
7	東北				3	1		0			4	7
7	富山	2	1	0	0	0	0	0	1	0	4	7
7	兵庫	1	1	0	0	0	0	1	0	1	4	7
7	埼玉				0	1	1	0	1	1	4	7
11	北海道			1	2		0	0	0	0	3	11
12	熊本	1	0	1	0		0		0	0	2	12
13	長野	1	0	0	0	0	0		0	0	1	13
13	千葉									1	1	13
15	福岡							0	0		0	15
15	和歌山					0					0	15

◆各リーグの紹介

では各リーグのご紹介です。

<p style="text-align: center;">参加リーグ</p> <p>東京 出場10回 最高成績 優勝5年連続5回 リーグ参加チーム数 14チーム</p> <p>神奈川 出場10回 最高成績 準優勝5回 リーグ参加チーム数 18チーム</p>	<p style="text-align: center;">参加リーグ</p> <p>静岡 出場10回 最高成績：優勝（第1回） リーグ参加チーム数 13チーム</p> <p>愛知 出場10回 最高成績：優勝（第2回） リーグ参加チーム数 5チーム</p> <p>大阪 出場8回 最高成績：優勝（第4回） リーグ参加チーム数 開催なし</p> <p>京都 出場9回 最高成績：優勝（第3回） リーグ参加チーム数 7チーム</p>
<p style="text-align: center;">参加リーグ</p> <p>富山 出場10回 最高成績：ベスト4 リーグ参加チーム数 13チーム</p> <p>兵庫 出場10回 最高成績：一次ラウンド リーグ参加チーム数 4チーム</p> <p>埼玉 出場7回 最高成績：一次ラウンド リーグ参加チーム数 6チーム</p> <p>東北 出場3回 最高成績：準優勝 リーグ参加チーム数 開催なし</p>	<p style="text-align: center;">参加リーグ</p> <p>北海道 出場7回 最高成績：ベスト4 リーグ参加チーム数 6チーム</p> <p>熊本 出場10回 最高成績：一次ラウンド リーグ参加チーム数 9チーム</p> <p>長野 出場10回 最高成績：一次ラウンド リーグ参加チーム数 6チーム</p> <p>千葉 出場3回 最高成績：一次ラウンド リーグ参加チーム数 6チーム</p>

東京は全大会出場です。5年連続、5回の優勝です。最初のころは東京、神奈川が優勝できない年が続いていましたけど、このところ東京が連覇を続けています。リーグ参加は14チームです。神奈川も出場10回ですが、意外なことに優勝がなく準優勝が5回。リーグ

参加は18チームで最大規模です。

続いて優勝経験のある4リーグがランキングでも上位です。静岡、愛知はいずれも10回出場です。大阪は本年度はリーグ戦ができておらず、出場8回となっています。第4回大会でシュライカー大阪が優勝しま

した。京都は出場9回で、京都橘が優勝しています。富山と同様に高体連のサッカー部が出場しているのも特徴です。

先ほど橘さんからご紹介あった富山も全ての大会に出場しています。リーグ参加も13チームということで、東京、神奈川に次ぐチーム数です。よく地方の皆さんからは、東京、神奈川はいいですよねと言われるのですが、いやいや富山でも熊本でもしっかりリーグできていますよというような素晴らしいモデルを作っただけです。兵庫も第1回から連続出場しています。いまは4チームということでチーム集めには苦労していますが、しっかりと運営してくれています。埼玉は出場7回です。東北は聖和学園の準優勝が一度ありますが、ここ数年はリーグ開催ができていません。

続いて北海道です。ベスト4に入ったことがあります。今年度は6チームで運営されています。熊本は先ほど話しましたが第1回大会から連続出場で、リーグも9チームでしっかり運営をされています。長野はホスト県となりますが、全大会出場で6チームでのリーグ開催です。千葉は最近の3回に連続出場で、こちらも6チームで開催されています。

ざっとリーグの10周年と、出場いただいているリーグのご紹介をいたしました。

現時点で全国9地域での開催にはなっておりません。四国、中国ではまだです。このような状況ですので、JFA、JFFに主催してもらえそうな段階にはまだないと考えています。

先ほど大友先生の話にあったように、今後はJFFで主催していただくことも視野に入れております。NPOサロン2002としては、できることならこの大会をJFFで主催していただき、引き継いでもらえればと考えています。

もともとU-18の大会がないところに単独チームの大会を作り、選抜チームの大会を作り、いまリーグチャンピオンの大会を作ってきたのがサロン2002のこれまでの流れです。リーグチャンピオンズカップをJFFに引き継いでいただけるのなら、それ以外にどういった大会が望まれているのか、サロン2002が担うべき、担うことが望ましい大会があれば、そういったところに力を注いでいきたいと考えています。

今日は京都の小曾根先生にオンラインで参加いただいています。いまちょうど京都のリーグをしっかりと運営されているのに加えまして、関東リーグにならって関西リーグの準備をいただいています。そのあたり

をコメントしていただければと思います。お願いできますか。

小曾根：京都の小曾根です。ちょっと周りが騒がしくてすみません。いま全日本フットサル選手権京都予選会場の京都市体育館にいます。この後、1試合だけ体育館をお借りして、U-18リーグを1試合消化するのを待っているところです。ガットと菟道高校が、いまから全勝対決をするところです。周りが騒がしくて申し訳ありません。

京都は現在7チームでリーグ戦をやっております。過去には、ご紹介いただいた京都橘高校の優勝もありましたけど最近ちょっと優勝から遠ざかっているような形です。

関西の方では京都と兵庫がリーグ戦をしていて長野の大会にも行かせてもらっていますが、奈良、滋賀、和歌山、そして大阪でもリーグ戦ができておらず、U-18FLCCに行けていない現状があります。

そこで関西でリーグ戦を作れないかということで、今年1回ワンデー大会をやりました。12月26日にも2回目やるつもりで予定しています。ペナルティスタジアム神戸でやらせていただく形です。さらにもう1回できるといいかなと思います。2026年度から関西リーグの発足につなげられたらいいかなと思うんですけど、始めるにあたり、一番そのあたりが大変かなと思うので、どう乗り越えていくかということです。神戸国際大学附属高校の埴田先生が中心になっていただき、小曾根がサポートしているといった感じです。

なかなか関東リーグのようにうまくはできていないんですけども、それに続いていけるように頑張れたらなと思っています。

この後、その試合のレフェリーするのでちょっと抜けます。

本多：ありがとうございます。じゃあレフェリー頑張ってください。

小曾根：ありがとうございます。

本多：いまお話に出ました兵庫県の埴田先生は、今日は大会運営があって参加できないということで、兵庫リーグからは私が代わりに出ているところです。

先ほども言いましたけど、リーグチャンピオンの

大会という器を作り、それに向けて皆さんが神奈川県でも京都でも兵庫でも、今日もリーグ戦を行っているただき本当にありがとうございます。これからもしっかり大会を、10回大会に続いて開催していき

たいと思いますので、引き続き皆さんのご協力をよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。

VI. 情報交換—全国各地の状況

中塚：どうもありがとうございました。ということで予定していたプレゼンはひと通り終了ですが、残り約30分あります。言い残したことや聞いておきたいこと、あるいは各地域の状況などを、少しずつでかまわないので教えていただくとありがたいのですが、一どうでしょう。

ではこちらからリクエストですが、熊本の鶴田さん、声を出せますか。

鶴田：はい、いまーす。

中塚：お久しぶりです。スケジュール問題などいろいろ出てきた中で、熊本が前期リーグ、後期リーグを工夫してスケジュールリングされている話を以前からお聞きしています。1月のリーグチャンピオンズカップには、年間チャンピオンではなく、前期のチャンピオンが出てくるようにされていると。そのあたりを、サッカーとの兼ね合いも含めて、熊本の状況をお聞かせいただけないでしょうか。

鶴田：わかりました。熊本もU-18リーグは結構長くやってるんですけど、ここ数年で変化があったのは、高校サッカー部の参加が増えたことで、サッカーのリーグ戦の形をフットサルにも取り入れてみるチャレンジをしています。いままでは運営サイドがスケジュールの提案をしていましたけど、ここ数年は参加チーム間でホーム、アウェーの担当を決め、ホームチームからアウェーチームに対して何月何日にここで試合やりませんかというような形で、チーム間で都合のいい日のやりとりをして、スケジュール調整を練習試合のように組んでいけるようにしています。

もう一つ。それをしやすくするために、リーグの最初にグループフォームで、何月何日マルとか何月何日バツとか、学校行事があるところとかをあらかじめ把握したものを全体に流して、ある程度活動で

きるスケジュール全体をチーム間で把握できるようにした上でスケジュール調整をしているという形ですね。

スケジュールについていまお話がありましたけど、熊本がちょっと特殊なのは参加費の方です。参加費は、今年からU-18リーグの前期を5,000円にしたんです。それは表彰の時のトロフィーを買う費用だけです。会場費は試合ごと、その日の会場費をその日の参加チームで割る形にしました。そうすることで、年度はじめにかかる費用がかなり軽減できました。会場費はチーム負担なので、連盟側も計上せずにやっていて、かなり手間が省けたと思います。

今年から始めたのが、鹿児島ของทีมと協力して肥後薩摩の「肥薩リーグ」を後期リーグの代わりに入れたことです。オフィシャルの九州リーグにできたらいいかと動いています。「肥薩リーグ」も鹿児島ของทีมと連携を取り、参加費ゼロにして練習試合のようにスケジュール調整をし、ジワリジワリとオフィシャルの形式で運営を進めていけたらいいなという形でスタートしています。

中塚：ありがとうございます。肥薩リーグは何チームぐらいでスタートしてるんですか？

鶴田：いま9チームでスタートしています。鹿児島が2チームで熊本が7チームですね。

中塚：両県の間に行き来があるわけですよね。結構大変そうな気がするんですが。

鶴田：鹿児島ของทีมがかなり理解があって、フットワーク軽く「熊本に行きますよ」って言ってくださったので実現できています。ただまだ後期リーグの代わりに入れたので、いまから始まるところです。次の機会に報告できたらと思います。

中塚：リーグチャンピオンズカップには、以前は熊本という前期リーグのチャンピオンが出てくるとお聞きしていましたが、前期リーグは9月から12月ぐらいのイメージですか？

鶴田：そうですね。今年からは前期リーグという形ではなく、今までの前期リーグがU-18フットサルリーグという形になりました。1回戦総当たりで、9月から12月で完結ですね。後期リーグの代わりに、いまから肥薩リーグが始まるということです。

中塚：なるほど、ありがとうございます。地域ごとにいろんな工夫をされている様子が耳に入ってきます。ではここから順不同で、こちらがお聞きしたい方に無茶ぶりします。

バルドラル浦安の露木さんが入っておられます。千葉県リーグも、本当は数年前からやっていたようなこともお聞きしていますが、我々が把握し連携が取れるようになったのはごく最近だと思えます。千葉県の様子を、関東リーグも合わせてご紹介いただけないでしょうか。

露木：千葉県のバルドラル浦安の露木と申します。千葉の状況としましては、ここ数年でプレリーグからようやく形ができてきて、いま6チームで実施しているところです。先ほど、東京と神奈川からどのようなチームが参加をしているか、というお話がありましたが、千葉に関しては他県とは異なり、フットサル専門チームの参加数が少ないです。リーグに参加しているチームについては、高校のサッカー部が、フットサルもしようということで参加をしてるところが大部分です。6チーム参加のうちの1チーム、我々がフットサル専門のクラブチームで残りが高校サッカーの部活のチームです。そういった現状ですので、どうしてもサッカーのスケジュールに合わせてチーム間で日程を調整してやっていくという状況になっています。昨年度もそうですけれども、今年度に関しても、まだこの時期になってもリーグとしては実施ができていません。年度の終わりに近づくとところで開催しているリーグというスケジュールになっております。

先ほどいろいろ皆様からスケジュールの共有を画面上でいただきましたが、本当に12月から1月、2月、3月と、年度の終わりにかけて実施している

リーグというところで、多少このスケジュール感が、皆さんのリーグと実施期間が違ってくるのかなと思います。背景には、サッカーチームが多く、やはり夏から秋にかけては日程が取れないというところがあり、後ろ倒しして実施しているところですよ。

中塚：サッカーチームがフットサルをやるということになると、学校のサッカー部の関わりを考えると、どうしても高校選手権予選が終わらないと始められないという状況だということでしょうか。

露木：はい、まさにおっしゃる通りです。あともう一点そこに加えると、千葉のU-18フットサル選手権が、4月のかなり早い時期、年度が始まった早い時期に予選がスタートします。年度が変わるので3年生がいなくなったりすることはもちろんありますが、1～2月でリーグ戦をすれば、サッカーチームもフットサルにしっかりと触れた状態で4月の選手権に向かえるということです。サッカーとフットサルとリンクさせると、後ろ倒ししてスケジュールを組むところにもプラスなところはあるのかなと思っております。

中塚：いま言われた千葉県の選手権というのは全国大会の予選を兼ねた大会ということですよ。

露木：そうですね。夏の全国大会の予選が、千葉では4月、結構早い時期に始まるということです。関東大会が6月で全国が8月というスケジュールなので、その一つ前にリーグ戦があるというような組み方をしております。

中塚：よくわかりました。ありがとうございます。やはり全国大会をどこに置くのかが、各都道府県のスケジュールにかなり関わってくる様子がうかがえます。

愛知県協会の小坂さんは声を出せますか。愛知の状況も教えていただけないでしょうか。

小坂：愛知県サッカー協会の小坂です。愛知県のU-18リーグの状況としましては、今年度5チームと少ない中でリーグ戦を行っております。過去は8チームほどあったんですけど、フットサルのリーグに参加できるフットサルチームの人数が減ってお

り、チーム数も減ってきている状況です。それはまずいということで、先ほどまでの話にもありましたが、愛知県としてもようやくというか、サッカーチームにもフットサルもやってくださいということで取り組みを始めました。今年度、サッカーチーム1チームがリーグ戦に参加してもらっています。

取り組みとしては、去年まで単独で参加していたチームが、先ほど話したように「人数が揃わないので今年は厳しい」というチームが2チームありました。この2チームを合同チームで参加してはどうかということで調整し、合同チームを許可して5チームというところでやっています。

高校のサッカーチームを取り入れようということで、名古屋オーシャンズのU-18チームはずっと愛知県の社会人リーグに入っているんですけど、そちらの協力を得て、高校のサッカーチームに声をかけ、高校のサッカーチームのフットサル大会を今年の7月に3日間行いました。先ほど話にあったように、サッカーチームにフットサルの面白さというか、サッカーの中でもフットサルの技術が有効だよということ、大会をやることによって知ってもらおうという取り組みをしています。そこで愛知県でU-18フットサルリーグをやっているという話をさせていただいたところ、参加チームの中から数チーム、興味を持っていただいたチームがありました。来年度はそこから3チーム参加してくれるのではないかと期待しています。来年度以降もサッカーチームのフットサル大会を行い、少しでもフットサルを浸透していこうかなと考えています。このような取り組みを今年度から始めているような状況です。

U-18の選抜大会については、本多さんとか連盟の方々にお世話になってはいますが、神戸の方に毎年なんとか参加するようにしています。今年も11月から活動を始めようとしていますので、選抜大会の方も継続して対応、活動しているような状況です。

中塚：ありがとうございます。7月に高校のサッカーチームの大会を開かれたということですね。何チームぐらい参加されましたか？

小坂：のべ20チーム近く参加していただきました。

中塚：ニーズはあるということですね。これももしかすると7～8月のサッカーの大会が外でできないという状況で、冷房の効いた体育館ならという観点も

併せてということでしょうか。

小坂：おっしゃる通りです。愛知県も全国に比べて夏の暑い時期は大会を中止しようということになりました。そのタイミングを見計らって計画し、7月の3日間の連休を利用してサッカーチームに声をかけて大会を実施したということです。

中塚：どうもありがとうございます。このような各地域の意欲的な取り組みをこういう場で紹介し合うことが、他の地域にとってもプラスになると思います。

北海道フットサル連盟の荒川さんは、いま電車で北海道へ戻っている途中だろうと思いますが、もし声出せるようでしたらどうでしょうか。難しいですね。

荒川：はい。いま電車中です。長話をしたいのですが、難しい状況です。皆さんすみません。

中塚：わかりました。移動中にすみません。ありがとうございます。ということで各地域の状況について、全地域というわけではありませんがご紹介いただきました。

そろそろクロージングの時間が近づいていますが、数名からコメントをいただくことはできません。

いきなりですが、足立学園高校の遠藤さん。DUOリーグの初期のころからサッカーと一緒にやってきた仲間です。日頃からサッカーにずっと関わり、サッカーだけで年中いっぱいになると思うんですが、フットサルとの融合、あるいはサッカーの中で見られる最近難しくなってきたことや新たな可能性など、遠藤さんなりに感じておられることをコメントしていただけないでしょうか。感想でかまいませんので。

遠藤：今日参加させていただいてすごくよかったと思うのは、実はフウガドルすみだの監督がうちのOBで、小倉っていうんですけど。

会場：おおおお。

遠藤：サッカー部出身ですよ。プレーヤーとしては浦安に随分長くお世話になってたんですけど、「先生優勝しました」という報告をもらい、「おめでと

う]って言うてるんですけど、何の大会かよくわかんなくて。いまいろんな資料を見せていただいて、こいつすげえ戦績を残してるんで、今度うちの学校で一言しゃべらそうと思っています。

率直な感想を申し上げますと、びっくりしたのが、フットサルのチーム数が減っているということなんです。どんどん増えているのかなと思ってました。というのは、中塚先生が立ち上げたサッカーのリーグ戦文化が全国に広まっていった（これは東京だけの事情かもしれませんが）、強豪私立が大規模化して、BチームやCチームがリーグ戦の上位を占めるようになり、弱小私立と人数の少ない都立みたいな二極化になって、強豪大規模私立はフットサルもやっているのかなと思っていました。ところが全部がサッカーのリーグの中にはめ込めるので、フットサルは逆にやらないという現象が起きています。そうすると残ってるのは、都立の例えば11人集まらないチームです。すると今度はさっきの費用の問題が出てきます。大きい問題です。学校の理解も難しくなる。そういうメカニズムかなと、勝手に思っています。

これを解決するにはどうしたらいいんだろうと。もしかしたら部活動の地域移行の中にこの問題の解決策があったりするのかなと思ってます。あとは、強豪私立のサッカーとフットサルの並行活動ですよ。これは日本全体として考えなきゃいけないけど、私も私立の教員で、サッカーでの募集が経営に関わってくる問題がありますので、一概には言えませんが「フットサル中心の部活動に変更して」と選手に伝えるのはなかなか難しい問題ではあるけど、どうにか整理がつくんじゃないかなと。それをやるには連盟とか協会とか組織的な仕組みや働きかけも必要のかなと思いますが、最後は「人」なんだろうと思います。

今日サロンに参加させていただいて感じたのは、中塚先生は全国にそういう人たちを育てる活動をしてらっしゃるというのに気がついて、私もすごく教えてもらっています。

もう一つだけ気がついたことというか、東京だけ特別な事情ですごく困ったなあと思っていたのは、グラウンドがなくてチーム数が多いということなんです。僕は出身が栃木でそういう環境で育ってなかったのびびっくりしたんです。ただ、それは少子化の問題を考えると贅沢な悩みなのかなと今日思いまし

た。それと、フットサルを屋内の施設でやるのにこれだけお金がかかるというのも、恥ずかしながら初めて知ったので新鮮な驚きでした。

玉生さん、T5が13万とおっしゃいましたが、T1、T2はもっと高いですよ。

玉生：そうです、26万円。

遠藤：26万円。これぶっちゃけ言いますが、T5だと協会から審判派遣していただきますが、俺の方がうまいよと思うような方がいたりして。そんな事情も含めた金額なので果たしてこれが妥当なのかと。私は地区トップリーグのままいくのがいいと思ってたので。ただ、公的にすることでメリットがある方もいらっしゃるということでこうなったんです。

こうなると、昇格権があってもT5には上がらないという選択肢があってもいいのかなとも思いません。そこも少し考えつつ、地方の問題と東京の問題の質は違うんだけど、なかなか悩ましいなと思いました。そのあたりに気づけたので、非常に勉強になりました。参加させていただき、ありがとうございました。

中塚：ありがとうございました。無茶ぶりにもかかわらず素敵なコメントで応じてくださいました。

ではそろそろ最後に大友さんと玉生さんから締めコメントを、と思ったら会場から質問がありますようです。望月さんお願いします。

望月：僕はいまサッカーの現場から離れているので、高校生年代の状況がわからないんですけど、今の話の続きです。強豪私学に人数がいっぱいいて、Bチーム、Cチームを作るのに必要な条件を確保されていった時に、先ほど言われていた弱小私立と、都立高校でも部員が集まるか集まらないかというところで、サッカー部の子たちのモチベーションはいまどんな感じなのかなというのを知りたいんですけど。

例えば、もう25年から30年前の話ですけど、僕の高校時代には、いまほど私立もこんなにサッカーに力を入れてるところはなかったですし、県立高校も、僕の場合静岡だったんですけど、学区で学校が決まっていたので、強豪高校に行きたかったとしても行けない子がいっぱいいたんです。だから結局、弱小と言われる高校にもモチベーションの高い

子たちが、そういう制度のせいかな一定数はいたんです。いまは選択肢があって、モチベーションの高い子たちはいい環境を選べるような状況にあるじゃないですか。ではその他の場合、先ほど言った、弱小私立とか、人数がギリギリの都立高校の子たちは、どういうモチベーションでサッカーをやっているのかなと思ったんです。

例えば、そういう人たちは、部活動が地域移行したときに続ける子ってかなり少ないんじゃないかなと僕は思うんですね。

それがいいのか悪いのかはちょっと…。サッカー好きな人は人数が減って規模が小さくなったら、それは寂しいなっていう思いもするでしょう。第三者的な視点で見たら、それはしょうがないんじゃないかということ…。

いまそういう子たちは、友達と一緒にやれるからいいのか、それともサッカーをやりたいと思ってモチベーション高くやっているのか、ちょっと知りたいんですけど。いまだどんな感じなんですか？

中塚：最後になってとても重要な投げかけをいただきました。たぶんこれにタイムリーに答えられるのは、橘さんじゃないかなと思います。このあたりを富山県高体連研究部で去年まで調査研究された成果を、今年1月の全国研究大会で発表していただいたので。短めにお願いします。

橘：東京の話題ではないので申し訳ないんですけども、富山の調査で、生徒たちは部活動で何を求めるかということ調べました。その調査では、生徒たちは友達と一緒にいたいということでした。サッカーかどうかでクロス集計したわけではないのですが、運動部、文化部含めた全ての回答で、まず求めているものは、自分の所属している部活の友達と一緒に過ごす時間を大事にしたいというのが浮き上がってきました。

サッカーをしたい子も当然います。いろんなニーズがあるのは当然ですけど、その子たちもやはり自分たちの部活動だという誇りを持ってやっていたいという気持ちでやっていることはあると思います。そういう子たちのために、我々もフラットにして対応しているところがあります。目の前のこの子はどうかというのは、それで区別するわけではありません。有名でないとか、超大物だとか弱小だとかいる

いろいろあるんですけど、その子たちもスポーツの中ではチャンピオンを目指してくると思うので、そういう子たちにしっかりと環境なり指導なりを与えてあげられるように準備します。しかしその子たちの最終的なニーズとしては、仲間と一緒に過ごす時間、大事な時をともに過ごすというところなんです。これは、これまで先輩方がされてきたようにしていく必要があると思います。そういう意味で部活動の魅力は今でもありますし、今後形が変わってきても、部活動に所属している思い出は変わらないんじゃないかな。そこを大事にしていくことが、これから変わっていても、学校の教員とは思う方が必要なのかなということが去年度までの調査研究で見えたことです。

中塚：どうもありがとうございました。

では最後に大友さん、玉生さんから全体を通して一言お願いします。では大友さんから。

大友：今日は貴重な機会をいただきましてありがとうございました。いまちょうど長年リーグを共に支えて頂いている湘南工大附属高校フットサル部の顧問の阿久津さんがすぐ隣にいます。長年続けている中で、10年、20年とフットサル専門チームも継続して活動しているのです。そういったチームが中心でやっていく側面を大切にしながらも、JFAの方でもすごく話題になっていますけど、高校サッカー部やサッカークラブチームにいかにかフットサルをやってもらえるか。これですね。この2つの側面は矛盾しちゃうから難しいけれど、その矛盾を何となく両方受け入れていくような、フットサル独特の難しさでありながらも、面白さと捉えて今後も続けていきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

中塚：ありがとうございました。では、玉生さん、お願いします。

玉生：どうもありがとうございました。

合同チームです。合同チームで満たしています。今の子たちは。数も多くなってきました。東京の大会でも合同チームの参加が多くなってきましたし、地方の大会を見ても合同チームで出るところが多いです。学校の先生に「合同チーム作ってやるか」と声をかけてくれたら「やりたいです」という子は

多く、それで救われる子たちも多いんじゃないかなと思います。とりあえず今はそういう形で、そういう環境を作ってあげられるんじゃないかなと思います。先ほどの質問についての私なりのお答えです。

貴重なお時間をいただき楽しく話をすることができ、ありがとうございました。これからも高校生にとって健全なサッカー環境の実現を目指して頑張っていこうと思います。その中でフットサルとサッカーの接点が多くなり、融合する将来ができれば楽しいでしょうし、期待したいと思います。

オンライン：たぶんホストが落ちたんですね。きっと。何かトラブルしましたね。

<復旧>

中塚：すみません。ホストの Zoom が落ちてしまったようです。オンラインの方、聞こえていますか？

集合写真を撮りたいので、もう 1 分だけお待ちください。顔出せる方は顔出してください。

では皆さんこちらへ。

<写真撮影>

中塚：会場組はこれから街へ繰り出します。また第 10 回大会でお会いしましょう。

ありがとうございました。

以上

(文責：中塚義実)

